

令和 8 年度

九州大学大学院医学系学府
医療経営・管理学専攻専門職学位課程

授 業 計 画

Syllabus

九州大学大学院医学系学府

目 次

1. 医療経営・管理学専攻専門職学位課程について	
1. 教育内容	1
2. 教育課程編成・実施の方針	1
3. 履修方法	2
4. 修了要件	3
5. 学位授与方針	3
6. カリキュラム・ポリシー	4
7. 医療経営・管理学専攻専門職学位課程修了後に想定される進路	5
2. 授業科目および取得すべき単位数	6
3. 授業科目の内容	
(1) 医療学基礎科目群	9
(2) 共通基礎科目群	10
(3) 必修専門科目群	11
(4) 選択専門科目群	12
4. 医療経営・管理学専攻 履修モデル	67
5. 令和8年度授業時間割	68
6. 医学系学府医療経営・管理学専攻 最終成果物執筆要項	70
7. 医療経営・管理学専攻成績評価規則	72
8. 九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻インターンシップ・ 実習研修に関する実施要領	73
9. 学生生活のしおり	74
10. 令和8年度学年暦（医学系学府）	79

1. 医療経営・管理学専攻専門職学位課程について

1. 教育内容

本専攻は、専門分化した医療技術を、人々が安心・納得・一体感を持って生活し、人生を過ごせるよう統合・調整・組織化できる高度な専門職業人の育成を目的とする。

欧米の公衆衛生大学院は、疫学・生物統計学等の基礎系学科と医療管理・経営、医療経済等の中核的学科を中心に、それぞれの大学院が特色ある学科を設けている。本専攻は、疫学、生物統計学等を基盤に、医療政策、医療経営、医療管理、医療健康行動等の分野により構成し、医療・保健に関する幅広い問題について特色ある総合的な教育・研究を行う。

専攻の学生は明確な目的意識をもって入学することを想定しており、教育は、医療経営・管理に必要な共通の基礎的な知識の習得に加えて、学生個々の目的・適性・能力等に応じ、さらなる専門的、実践的な知見を深めることを目指す。

2. 教育課程編成・実施の方針

授業科目は医療学基礎科目群、共通基礎科目群、必修専門科目群、選択専門科目群で構成されている。医療学基礎科目群は、医学・医療に関する基礎知識を修得するものであり、非医系学生（医師、歯科医師、薬剤師、保健師、看護師などの国家資格のための教育を受けた学士以外）に対しては必修科目となっている。共通基礎科目群は医療経営・管理の共通の基盤となる「医療安全管理論」、「医療疫学」、「医療保障法」などが含まれている。必修専門科目群は「医療政策学」、「医療財政学」、「医療経営学」、「医療管理学」、「健康行動科学」、「疫学」、「医学統計学」、「環境保健学」、「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」からなり、公衆衛生および医療経営・管理の専門職を養成するために不可欠な科目である。選択専門科目群は、医療経営・管理に必要な幅広い領域をカバーするものになっている。

カリキュラムは以下の原則に従って編成されている。

- (1) 専門職大学院の理念をふまえる。
- (2) 医学・医療に関する基礎知識の上に立って専攻教育を行うため、非医系学生に医療学基礎科目群（医学概論、分子医学概論、内科学および外科学）を履修させ、医学知識を修得させる。
- (3) 医療政策、医療経営、医療管理、医療健康行動等のいずれの分野も、学術研究に基づく研究体系を基盤に、実践的な教育を必要とするものであり、大学教員と実務経験者の教員の授業科目を効果的に組み合わせて教育を行う。

- (4) 授業科目は、指導教員の履修指導により、本人の適性、能力、希望する進路に応じた柔軟な履修を可能なものとする。
- (5) 指導教員は、医療経営・管理学講座の教員をもって充て、学習内容を深めることができるように編成する。必要がある場合は、他講座や他学府の教員に依頼し、特定分野について指導を依頼することもある。
- (6) 授業は、講義形式のほか、ケース・スタディ、討議、現地調査なども取り入れた実践的内容で実施する。また、シラバスを明確にし、確実な予習を基にした授業科目の履修を中心に、プレゼンテーション、ミニテスト、レポートなどにより理解度を把握しながら自発的学習を促していく。
- (7) カリキュラムの編成については、授業評価アンケートの結果や外部評価の指摘事項もふまえ、継続的に見直していく。

3. 履修方法

- (1) 授業科目を医療学基礎科目群、共通基礎科目群、必修専門科目群、選択専門科目群の4群で構成する。
- (2) 医療学基礎科目群は、非医系学生が医学・医療に関する基礎知識を修得するもので、非医系学生の必修科目とし、4単位を修得しなければならない。医系学生は履修の必要はないが履修することは可能である。
- (3) 共通基礎科目群は、医療経営・管理学各分野において履修する上での基礎的知識を修得するための共通科目とし、6単位以上修得しなければならない。
- (4) 必修専門科目群は、全学生とも18単位全て修得しなければならない。
- (5) 演習の単位認定には、最終成果物の完成が必須である。
- (6) 医療学基礎科目群および共通基礎科目群のうち、修了要件として必要な単位数以上に修得した科目の単位は、選択専門科目群の単位数として認めるものとする。
- (7) 一学期（前期・後期それぞれ）に履修科目として登録することができる単位数は25単位を上限とする。
- (8) 指導教員は、教育上必要があると認めるときは、専門科目群の履修に代わり、他の学部、学府の授業科目を指定して履修させることができる。
- (9) 教育上有益と認めるときに限り、入学する前に大学院において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を本専攻における授業科目の履修により修得したものとみなすことがある。
- (10) 履修可能な授業科目は入学年度に開講されている授業科目であり、2年次以降に新たに開講された授業科目は、聴講はできるものの単位数としては認められない。

4. 修了要件

医系学生，非医系学生ともに，2年以上在学し，指定の授業科目から30単位以上を修得し，その他本専攻の定める教育課程を修了すること。修了要件を満たした者には医療経営・管理学修士（専門職）の学位（英名 Master of Health Administration : MHA）を授与する。

5. 学位授与方針

教育の目的	医療経営・管理学専攻は，専門分化した医療技術を，人々が「安心・納得・一体感」を持って生活し，人生を過ごせるよう，統合・調整・組織化できる高度な専門職業人を育成することを，教育の目的としている。その目的のもとに展開する本課程を修了し，下記の学修目標を達成した者に，修士（医療経営・管理学修士（専門職））を授与する。
参照基準	大学基準協会公衆衛生系専門職大学院認証基準 ※本課程は，大学基準協会による公衆衛生系専門職大学院認証評価を2023年に受審し，適合認定（認定期間は2029年まで）を受けている。
学習目標	以下を学修の目標とする。 A. 主体的な学び・協働 ・医療経営・管理について問題意識を常に持ち，自ら進んでその問題を解決していこうという志向をもつ。 ・医療経営・管理の問題を論理的に現場や社会に対して伝えることができる。 B. 知識・理解 ・最新の医学知識に基づき，医療の課題・問題点について説明できる。 ・医療政策の目的，仕組み，関連法規，現状の問題点について説明できる。 ・医療経営の目的，経営戦略，経営組織，事業計画，マーケティングについて説明ができる。 ・医療管理の目的，組織管理，安全管理，医療の質の管理，人事管理，財務管理について説明ができる。 ・医療・健康にかかわる行動変容を支援する目的，技法，阻害要因，医療紛争の予防について説明ができる。 C-1. 適用・分析 ・基本的な統計学的，疫学的手法を用いて定量することができる。 ・医療経営・管理に関する問題を調査し，対策・改善を行うための仕組みを構築できる。 ・医療政策に対応した経営を実践できる。 C-2. 評価・創造 ・問題解決を組織的に行っていくための専門的な方法論に基づいて，現場の問題に対して目的を明確にし，具体的な対策を組み立て，結果を評価し，改善することができる。 D. 実践 ・利害関係者の多様な利害を調整し，コンセンサスを得るプロセスを担うことができる。 ・根拠をもとに，周囲のスタッフと現場の認識を共有し，改善に向けた共同作業を行いながら，自身も組織も成長することができる。 ・患者，職員が納得した医療を届けるための仕組みを提案することができる。

6. カリキュラム・ポリシー

医療経営・管理学専攻は、ディプロマ・ポリシーを達成するために、カリキュラム・マップ（※）の通り、教育課程を編成する。

教育課程は、疫学、生物統計学等を基盤に、医療政策、医療経営、医療管理、医療健康行動等の分野を加えて構成する。医療・保健に関する幅広い問題について特色ある総合的な教育を行うために、授業科目は「医療学基礎科目群」、「共通基礎科目群」、「必修専門科目群」、「選択専門科目群」に分けて編成する。「必修専門科目群」では、公衆衛生専門職大学院の基本5領域である疫学、医学統計学、健康行動科学、医療政策学、環境保健学を通して公衆衛生学の基盤を固めた上で、医療経営・管理の基礎となる医療財政学、医療経営学、医療管理学を修得し、医療経営・管理に対する主体的な学び・協働（A）が育まれる。また、非医系学生に対して必要とされる医学・医療に関する基礎知識を含む科目群「医療学基礎科目群」、医療経営・管理を实践する上で不可欠な科目群「共通基礎科目群」および医療経営・管理に必要な幅広い領域の科目を含む科目群「選択専門科目群」を通して知識・理解（B）、適用・分析（C-1）が育まれ、演習Ⅰ、演習Ⅱを通して医療経営・管理における評価・創造（C-2）および実践（D）が育まれている。

【研究指導体制】演習は学生の知識・技術を重視し、希望を基に主指導教員を決定する。学生の研究内容に応じて、複数の教員（主指導教員1名、副指導教員1名）による研究指導体制を整え、演習Ⅰ・Ⅱを基盤に研究指導を行う。

【継続的なカリキュラム見直しの仕組み(内部質保証)】1年は基盤的な学びの姿勢と知識・理解を習得し、発展的な知識・理解およびその活用力を習得する「基礎・発展」期、2年は最終成果物研究を通じて知識・能力の統合と新しい知識の創出に取り組む「統合」期と位置づける。学修目標の達成度は、それぞれの期の終盤に、以下の方針（アセスメント・プラン）に基づいて評価し、その評価結果に基づいて、授業科目内の教授方法や授業科目の配置等の改善の必要がないかを「医療経営・管理学専攻会議」、「大学院委員会」、「教育課程連携協議会」において検討することで、教学マネジメントを推進する。

《アセスメント・プラン》

- ・「基礎・発展」期の評価：学生の成績評価を総合的に精査する。
- ・「統合」期の評価：学びの集大成としての最終成果物研究を、共通ルーブリックに基づいて審査する。

7. 医療経営・管理学専攻専門職学位課程修了後に想定される進路

医療経営・管理学専攻専門職学位課程修了後に想定される進路の分野としては、医療機関における実務はもとより、医療経営・管理に関連する研究、教育、行政に至るまで多岐にわたる。具体的には、医療機関、学術研究機関、医育機関・教育機関、保健・医療・福祉に関連する国・地方自治体の行政機関、医師会等の職能団体、医療関連の第三者機関、シンクタンク、コンサルティング会社、介護・福祉施設などが挙げられる。医療経営・管理に関する体系的教育体制が確立されていないなかで、修了者は、これらの分野におけるパイオニアかつ指導者として、国内のみならず、国際的にも活躍することが期待される。

2. 授業科目および取得すべき単位数

(1) 医療学基礎科目群

非医系学生（医師，歯科医師，薬剤師，保健師，看護師などの国家資格のための教育を受けた学士以外）の必須科目

下記4科目（医学概論，分子医学概論，内科学，外科学）それぞれ1単位を履修すること

授業科目名	配当年次	単位数	1年次		2年次		世話人または担当教員
			前期	後期	前期	後期	
医学概論	1	1	○				松尾教授・福田准教授・入江准教授
分子医学概論	1	1	○				久場教授ほか
内科学	1	1	○				松尾教授・吾郷教授・秦教授
外科学	1	1	○				吉住教授

(2) 共通基礎科目群

医系学生および非医系学生の選択必須科目6単位以上必要

授業科目名	配当年次	単位数	1年次		2年次		世話人または担当教員
			前期	後期	前期	後期	
医療マーケティング論	2	2					非開講
医療の質概論	1	2		○			鴨打教授・入江准教授
医療安全管理論	1	2		■			鴨打教授・鮎澤特任准教授
医療オーガナイズ論	1・2	2					非開講
医療疫学	1	2	■				松尾教授
社会医学	1	1	▲	▲			臼元教授
医療行政学	1	2	■				入江准教授・尾形名誉教授
医療保障法	1	2		○			秦教授
衛生・公衆衛生学	1	2		○			秦教授
医療情報学	1	2		○			中島教授・西山准教授・松本助教

(3) 必修専門科目群

医系学生および非医系学生の選択必須科目 18 単位すべて必要

授業科目名	配当 年次	単位数	1 年次		2 年次		世話人または担当教員
			前期	後期	前期	後期	
医療政策学	1	2		○			入江准教授
医療財政学	1	2	○				福田准教授
医療経営学	1	2		○			福田准教授
医療管理学	1	2	○				松尾教授・鮎澤特任准教授
健康行動科学	1	2	○				鴨打教授・荒木元教授
疫学	1	2	○				秦教授・二宮教授
医学統計学	1	2	○				松尾教授・松本助教
環境保健学	1	2		○			松尾教授・入江准教授
演習 I	2	1			○		指導教員
演習 II	2	1				○	指導教員

(4) 選択専門科目群

授業科目名	配当 年次	単位数	1 年次		2 年次		世話人または担当教員
			前期	後期	前期	後期	
ケアコミュニケーション論	1	2		■			鴨打教授・荒木元教授
医療経済学	1	2	■				松尾教授・尾形名誉教授
医療訴訟論	1	2		■			鴨打教授・五十川名誉教授
疾病管理学	1	2					非開講
医療分析学	1	2		○			福田准教授
病院会計学	1	2		■			重見共同代表
社会保険労務論	1	2	■				鴨打教授ほか
データサイエンス概論	1	2		○			鴨打教授・松本助教
人体構造・機能概論	1	1	▲				目野教授・三浦(岳)教授・神野教授
病因論	1	1	▲				小田教授
がん医療概論	1	1		▲			馬場教授

○:オンライン授業 □:オンライン授業(土日集中講義) ■:対面授業(土日集中講義)

▲:対面授業(平日講義)

配当年次は当該科目履修可能な学年であり、当該学年以上の学年が履修可能である。

時間割、授業形態は変更される場合がある。

令和8年度の授業形態について

主として火曜日、木曜日に行われる必修専門科目群や共通基礎科目群、あるいはその他の平日の曜日にも行われる医療学基礎科目群は、原則としてライブ形式で同時性、双方向性のオンライン授業を行う。オンライン授業では質問の機会を常時確保した上で、講義、討議、グループディスカッション、ワークショップ、プレゼンテーション等を行う。

一方、対面により教育効果が上がると考えられる共通基礎科目群の一部の科目は、土日の集中講義形式として対面で授業を行う。

選択専門科目群の多くの科目もオンライン授業あるいは土日の集中講義形式として対面で授業を行うが、選択専門科目群の一部の科目は平日に対面授業で行われるものもある。

オンデマンド講義は、教育効果を鑑み復習、反転授業等に利用する。オンデマンドによる視聴を出席とは認めない。

専門職大学院コンソーシアムの「相互履修対象科目」について

- 九州大学の専門職大学院コンソーシアムの制度により、他のビジネススクール(経済学府産業マネジメント専攻、人間環境学府実践臨床心理学専攻、法科大学院)の講義の一部を履修し、単位とすることができる。
- 2年次以降の履修になる。
- 対象となる授業が年度で異なり、別途シラバスを参照とする。

3. 授業科目の内容

(1) 医療学基礎科目群 P. 14～

授業科目	授業内容	掲載頁
医学概論	医学・医療が成り立つ上で必要な哲学, 倫理, 科学, 法律などさまざまな視点から, 医学, 医療について自ら考えることができるようになることをめざし, 講義する。	15
分子医学概論	ヒトを構成する最小単位である分子の構造と機能から人体の機能を考察する。特に急速に進行するゲノム解析を含む遺伝学, 免疫学, 生理学等の最新の動向について, 事例検討を中心に講義し, 現代の医学の課題について討論する。	16
内科学	内科学の症候から診断にいたるプロセスの講義を行う。各論では, 認知症や感染症, 糖尿病, 心身医学など現代社会において問題となっている内科疾患について, その疫学から症候, 診断, 治療まで体系的に講義する。	18
外科学	外科学を中心とした治療学を, 医師, 医療技術者, 患者・家族の関係を含めた医療プロセスについて, 講義形式により行う。	19

(2) 共通基礎科目群 P. 20～

授業科目	授業内容	掲載頁
医療マーケティング論	医療サービス提供者が、患者のニーズ(ある充足状況が奪われている状態)やウォンツ(ニーズを満たすために特定のものが欲しいという欲求)を満たす社会的・管理的プロセスを学ぶ。	21
医療の質概論	医療の提供を最適化するために「医療の質」とは何かを考察する。医療を取り巻く環境の変化に対応し、ストラクチャー、プロセス、アウトカムの面から質を多角的に測定、評価し、質を改善する方策について学習する。	23
医療安全管理論	近年の医療の現場における安全管理をめぐる取り組みの経緯ならびに動向を理解し、その具体的な取り組みに必要な知識と技術を修得するとともに取り組みの問題点ならびに今後の課題を検討する。	24
医療オーガナイズ論	医療のオーガナイズには、根拠に基づいた測定、推計、設計に加えて、社会的な価値の共有や合意など哲学や倫理的な問題も考慮されなければならない。ここでは、EBM、因果関係論、医療判断学、健康の概念、健康政策、患者の支援、生命倫理学などを取り上げる。	26
医療疫学	疫学はその発展とともに広く臨床応用されるようになっている。より一層の医療、医学の発展には、医療現場における応用疫学研究が求められており、ここでは応用疫学研究について学び、理解を深める。	28
社会医学	自然及び社会環境がヒト集団の健康に与える各種要因を分析、理解し、ヒトの健康増進。病気の予防に役立つ対策を立案する社会医学的研究方法を講義し、問題解決型グループ学習により社会医学の研究成果が直ちに社会の利益として反映されることを理解する。	29
医療行政学	医療行政の施策は合理的かつ効率的であることが必要で、医療政策の策定や変更は合理的な根拠(evidence)に基づいて行われなければならない。日本の医療行政の基本的な仕組みと特徴、ならびに国家の行財政システムにおける医療行財政の位置付けについて学ぶ。	31
医療保障法	医療に関連する法の概念を理解することを基本的姿勢とする。厚生行政における政策立案や医療の実施における医療保障法の考え方について学ぶ。	33
衛生・公衆衛生学	公衆衛生は、疾病予防、寿命延伸、身体的および精神的な健康増進にむけた社会的な取り組みである。ここでは、公衆衛生が我が国の医療保健活動において果たす役割について学ぶ。	34
医療情報学	医療保険制度や法制度を含め、電子カルテ、DPC・行政データ、リアルワールドデータ、AI活用まで、医療現場・研究・経営における医療情報について学び、適切に活用する力を養う。	35

(3) 必修専門科目群 P. 36～

授業科目	授業内容	掲載頁
医療政策学	医療政策学では、資源に限りがあることを前提とし、公正に効率良く医療資源を分配するための制度と技術を学ぶ。医療制度としては、医療法、健康保険制度、診療報酬制度、介護保険制度、保健政策、医療制度の国際比較を、技術としては、医療政策を評価する技術、医療の経済学的分析方法を講義する。	37
医療財政学	国、地方自治体及び保険者の財政構造及び医療提供上の財政的諸問題について、財政学・経済学の視点を踏まえて講義する。また、資源配分効率性を検証するための費用対効果分析の手法を修得する。	38
医療経営学	経営学において発達してきた理論的、実証的な分析手法を医療機関経営に適用・応用した講義を行うとともに、我が国の現実の医療機関経営のケース・スタディを行うことにより、医療機関経営についての実践的な知見を深める。	40
医療管理学	「管理」に関する体系的な知識を修得するとともに、医療の現場の「管理」に関する知識と理解を深める。特に「質の管理」と「安全管理」に関する知識と理解を深め、その具体的な実践の手法を修得する。	42
健康行動科学	医療・健康の場における人の行動の特徴・種類を知り、それらに影響を与える要因を考える。また、コミュニケーション技法、健康・医療の場におけるマネジメント、人の行動と医療・健康との関係等について講義及び事例研究を行う。	44
疫学	疫学研究を介して、これまで多くの医療保健問題の解決が試みられている。疫学では統計学的な手法が用いられるが、医療の実践における疫学的思考を理解することを主として講義する。	45
医学統計学	公衆衛生学及び医療で用いられる基本的な統計処理に必要な適正な標本の収集とデータ解析、検定推定の基礎理論、人口統計学、保健統計学等について講義と演習を組み合わせ授業を行う。	46
環境保健学	人の健康に密接な関係を有する環境の要素について学習する。環境保健学(環境疫学)分野における主なテーマについて、理解を促進することを目的とする。	47
演習 I・II	医療経営・管理に関する卒業成果物を作成するために必要な講義及び研究指導を行う。	48

(4) 選択専門科目群 P. 53～

授業科目	授業内容	掲載頁
ケアコミュニケーション論	医療分野においてコミュニケーションが果たす役割は、他の分野に比べはるかに大きいものがある。医療の場で行われているコミュニケーションを体系的に理解するとともに、その果たす役割について講義及び事例研究を行う。	54
医療経済学	保健医療における課題について経済的視点からアプローチする。行政や医療の現場の立場から、経済的評価の意義について理解し、我が国の医療課題を解決するための思考を学ぶ。	55
医療訴訟論	医療過誤発生の構造、医療過誤判例の法理、訴訟法等医療過誤と法的責任を中心に、訴訟当事者間の関係、訴訟の要因となる医療現場の問題点等について事例を中心に講義及びグループ討議を行う。	56
疾病管理学	患者、地域、社会における疾病管理の意義とその概要を学習する。疾病発症の背景、機序を理解し、モニタリング、心理学的介入、行動変容等を通じて医学的管理を組織的に行う体系について考える。	57
医療分析学	医療分析学の概念、指標、分析方法等に関する基礎的な知識を提供するとともに、保健医療分野の具体例を用いて、研究計画の立案からデータの収集、管理、統計解析、解釈に至るまでの一連のプロセスについて理解を促進することを目的とする。	58
病院会計学	「病医院に倒産はない」という神話は過去のものとなり、我が国の医療機関を取り巻く環境は診療報酬の改定や少子高齢化、医療費の増加抑制など目まぐるしく変化し、一般企業と同様の経営ポリシーを保持して行かなければならない状況となっている。 当講義は医療機関の経営的特質の部分と一般企業と同様の経営手法を取るべき部分を調和させながら、病医院が行うべき経営を会計学の視点から講義する。	59
社会保険労務論	医療機関も含め企業経営の現場における昨今の人事・労務に関する諸問題、経営ニーズ、対応策について、関係諸法令、行政動向、企業事例を通じて理解する。	61
データサイエンス概論	医療分野においてはデータの積極的な利活用が行われている。データ分析の全体像から、因果推論や統計学的学習、ディープラーニングの基礎と応用分野まで幅広く学ぶ。	62
人体構造・機能概論	医学研究に携わっていく上で、人体の基本的構造と機能についての正しい知識が必要である。正常人のからだを構成している器官の構造を理解し、さらに人体発生のあらましについて理解する。	63

<p>病因論</p>	<p>主要な病気, 病的状態を理解するために, その原因, 発病機構, 転機について学習し, 臨床病学を正しく把握する為に必要な病理学的知識を習得する。</p>	<p>64</p>
<p>がん医療概論</p>	<p>がんの特性を病理学的観点, 治療学的観点から学習し, 患者の病態理解に役立つ知識を獲得する。がん医療におけるチーム医療の重要性を理解し, 最新のがん薬物治療開発について理解する。</p>	<p>65</p>

科目別授業内容

(1) 医療学基礎科目群

授業科目群名	医療学基礎科目群																										
授業科目名	医学概論																										
開講学期	1年次・前期	単位数	1																								
担当教員	松尾 龍(世話人), 福田 治久, 入江 芙美																										
授業の概要	<p>I. 目標</p> <p>医学概論では、医学および医療について社会との関わりという視点から、医学とは何か、医療のあるべき姿とは何か、について学ぶ。</p> <p>II. 個別行動目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 医学とは何かについて述べることができる。 ● 健康と病気の関係について理解し、説明することができる。 ● 医の倫理について理解し、説明することができる。 ● 医療の実態とそのあり方について述べるができる。 ● 医の科学について理解し、説明することができる。 <p>III. 授業内容</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">1. 概論</td> <td style="width: 30%;">松尾 龍</td> <td style="width: 40%;">(4/ 9 5限)</td> </tr> <tr> <td>2. 健康と病気</td> <td>鶴ヶ野しのぶ</td> <td>(4/16 5限)</td> </tr> <tr> <td>3. 医の倫理 I</td> <td>松尾 龍</td> <td>(4/23 5限)</td> </tr> <tr> <td>4. 医の倫理 II</td> <td>松尾 龍</td> <td>(4/30 5限)</td> </tr> <tr> <td>5. 医学と医療 I</td> <td>入江 芙美</td> <td>(5/14 5限)</td> </tr> <tr> <td>6. 医学と医療 II</td> <td>入江 芙美</td> <td>(5/21 5限)</td> </tr> <tr> <td>7. 医の科学 I</td> <td>福田 治久</td> <td>(5/28 5限)</td> </tr> <tr> <td>8. 医の科学 II</td> <td>福田 治久</td> <td>(6/ 4 5限)</td> </tr> </table>			1. 概論	松尾 龍	(4/ 9 5限)	2. 健康と病気	鶴ヶ野しのぶ	(4/16 5限)	3. 医の倫理 I	松尾 龍	(4/23 5限)	4. 医の倫理 II	松尾 龍	(4/30 5限)	5. 医学と医療 I	入江 芙美	(5/14 5限)	6. 医学と医療 II	入江 芙美	(5/21 5限)	7. 医の科学 I	福田 治久	(5/28 5限)	8. 医の科学 II	福田 治久	(6/ 4 5限)
1. 概論	松尾 龍	(4/ 9 5限)																									
2. 健康と病気	鶴ヶ野しのぶ	(4/16 5限)																									
3. 医の倫理 I	松尾 龍	(4/23 5限)																									
4. 医の倫理 II	松尾 龍	(4/30 5限)																									
5. 医学と医療 I	入江 芙美	(5/14 5限)																									
6. 医学と医療 II	入江 芙美	(5/21 5限)																									
7. 医の科学 I	福田 治久	(5/28 5限)																									
8. 医の科学 II	福田 治久	(6/ 4 5限)																									
授業のすすめ方	講義形式である。																										
教科書及び参考書	授業時に渡すレジュメに記す。																										
OFFICE HOUR	適宜相談に応じる。Eメールによる連絡がのぞましい。																										
試験・成績評価	・積極的な授業参加姿勢 40%，レポート 60%で評価し、60 点以上を合格とする。																										

授業科目群名	医療学基礎科目群		
授業科目名	分子医学概論		
開講学期	1年次・前期	単位数	1
担当教員	久場 敬司(世話人), 池ノ内 順一, 中島 欽一, 新井 文用, 國崎 祐哉, 目野 主税, 松沢 健司		
授業の概要	<p>I. 一般目標(GIO) ヒトの健康の仕組みと病気の成り立ちを分子のレベルで理解する.</p> <p>II. 個別行動目標(SBO)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 遺伝子とタンパク質(松沢 健司 講師)(6月12日(金) 2時限目) <ol style="list-style-type: none"> 1) DNA から RNA を経てタンパク質合成に至る分子機構を理解し説明できる. 2) 単一遺伝子病の原理を理解し説明できる. 3) タンパク質の構造と遺伝病の関連を理解し説明できる. 2. ウイルス感染と宿主応答(久場 敬司 教授)(6月19日(金) 2時限目) <ol style="list-style-type: none"> 1) 呼吸器コロナウイルス感染の分子機構を理解し説明できる. 2) ウイルス感染における宿主因子について理解し説明できる. 3) ウイルス感染症の重症化における宿主因子について理解し説明できる. 3. 代謝とエネルギー(池ノ内 順一 教授)(6月26日(金) 2時限目) <ol style="list-style-type: none"> 1) 食物からエネルギー物質 ATP 生成に至る分子機構を理解し説明できる. 2) エネルギー貯蔵の分子機構を理解し説明できる. 3) エネルギー利用の分子機構を理解し説明できる. 4. 組織幹細胞の維持機構(新井 文用 教授)(7月3日(金) 2時限目) <ol style="list-style-type: none"> 1) 幹細胞のストレスからの保護について理解し, 説明できる. 2) 幹細胞を維持する微小環境について理解し, 説明できる. 3) 幹細胞の維持機構の破綻について理解し, 説明できる. 5. 幹細胞と再生医療(中島 欽一 教授)(7月10日(金) 2時限目) <ol style="list-style-type: none"> 1) 幹細胞について理解し, 説明できる. 2) 遺伝子発現を制御するエピジェネティクスに関して理解し, 説明できる. 3) iPS 細胞および神経幹細胞を利用した再生医療について理解し, 説明できる. 6. オミクスアプローチによる生体応答の解析(國崎 祐哉 教授)(7月17日(金) 2時限目) <ol style="list-style-type: none"> 1) 質量分析装置の原理を理解する. 2) 質量分析を駆使した薬剤標的の探索法や細胞応答の解析手法を理解する. 3) オミクス技術の臨床応用についての基礎知識を習得する. 7. 個体発生と発生原理(目野 主税 教授)(7月24日(金) 2時限目) <ol style="list-style-type: none"> 1) 初期発生の概要を説明できる. 2) 器官形成について説明できる. 3) 個体発生を可能にする発生原理について説明できる. 		
授業のすすめ方	生化学, 分子生物学, 発生生物学, 幹細胞生物学など多面的分野から, 最新医学の現状について代表的疾患を例に分子レベルで講義する. オンライン(Zoom)で講義を行う.		

教科書及び参考書	「エッセンシャル細胞生物学 原書第5版」中村桂子・他監訳 南江堂
OFFICE HOUR	特に設定しないが、随時質問・相談に応じる。
試験・成績評価	担当教員が授業中の質疑応答やレポート等で評価し、各担当教員からの報告を総合して最終評価とする。

授業科目群名	医療学基礎科目群																																		
授業科目名	内科学																																		
開講学期	1年次・前期	単位数	1																																
担当教員	松尾 龍(世話人), 吾郷 哲朗, 秦 淳																																		
授業の概要	<p>I. 目標</p> <p>内科疾患総論では、症候学、診断学から診断プロセスについて学び、内科疾患各論では、各疾患の疫学、症候、診断、治療まで体系的に理解する。</p> <p>II. 個別行動目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 内科疾患における症候学、診断学について理解する。 ● 老年医学について、その特徴と診療にあり方について理解する。 ● 心身医学について、心身相関、心身症の特徴・診断・治療を理解する。 ● 糖尿病代謝疾患について、疫学、症候、診断、治療を理解する。 ● 感染性疾患について、疫学、症候、診断、治療を理解する。 ● 認知症について、疫学、症候、診断、治療を理解する。 ● 生活習慣病と脳卒中について、疫学、症候、診断、治療を理解する。 ● 循環器疾患について、疫学、症候、診断、治療を理解する。 <p>III. 授業内容</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 内科学概論</td> <td>松尾 龍</td> <td>(4/ 9</td> <td>6限)</td> </tr> <tr> <td>2. 老年医学</td> <td>松尾 龍</td> <td>(4/16</td> <td>6限)</td> </tr> <tr> <td>3. 心身医学</td> <td>吉原 一文</td> <td>(4/23</td> <td>6限)</td> </tr> <tr> <td>4. 糖尿病代謝疾患</td> <td>山本 紀子</td> <td>(4/30</td> <td>6限)</td> </tr> <tr> <td>5. 感染性疾患</td> <td>秦 淳</td> <td>(5/14</td> <td>6限)</td> </tr> <tr> <td>6. 認知症</td> <td>秦 淳</td> <td>(5/21</td> <td>6限)</td> </tr> <tr> <td>7. 生活習慣病と脳卒中</td> <td>吾郷 哲朗</td> <td>(5/28</td> <td>6限)</td> </tr> <tr> <td>8. 循環器疾患</td> <td>秦 淳</td> <td>(6/ 4</td> <td>6限)</td> </tr> </table>			1. 内科学概論	松尾 龍	(4/ 9	6限)	2. 老年医学	松尾 龍	(4/16	6限)	3. 心身医学	吉原 一文	(4/23	6限)	4. 糖尿病代謝疾患	山本 紀子	(4/30	6限)	5. 感染性疾患	秦 淳	(5/14	6限)	6. 認知症	秦 淳	(5/21	6限)	7. 生活習慣病と脳卒中	吾郷 哲朗	(5/28	6限)	8. 循環器疾患	秦 淳	(6/ 4	6限)
1. 内科学概論	松尾 龍	(4/ 9	6限)																																
2. 老年医学	松尾 龍	(4/16	6限)																																
3. 心身医学	吉原 一文	(4/23	6限)																																
4. 糖尿病代謝疾患	山本 紀子	(4/30	6限)																																
5. 感染性疾患	秦 淳	(5/14	6限)																																
6. 認知症	秦 淳	(5/21	6限)																																
7. 生活習慣病と脳卒中	吾郷 哲朗	(5/28	6限)																																
8. 循環器疾患	秦 淳	(6/ 4	6限)																																
授業のすすめ方	講義形式である。																																		
教科書及び参考書	講義の際に、資料を適宜配布する。																																		
OFFICE HOUR	適宜相談に応じる。Eメールによる事前アポイントがのぞましい。																																		
試験・成績評価	授業の積極的な参加姿勢 40%、試験 60%で評価する。																																		

授業科目群名	医療学基礎科目群		
授業科目名	外科学		
開講学期	1年次・前期	単位数	1
担当教員	吉住 朋晴		
授業の概要	<p>I. 一般学習目標(GIO)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 外科療学の概要を理解する. 2) 外科治療における医療従事者, 患者, 家族との関係を理解する. 3) 外科学治療と医療制度, 社会制度との関係を理解する. <p>II. 個別行動目標(S80)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 外科治療の概要 <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者が入院し, 外科治療を受け, 退院するまでのプロセスを時系列に沿って説明できる. 2. 外科治療のプロセスに必要な各種リソースを列挙し, それぞれの役割を説明できる. 3. 外科治療におけるトラブルを列挙し, それぞれの対策について説明できる. 2) 外科治療と医療従事者, 患者, 家族との関係 <ol style="list-style-type: none"> 1. 外科治療に関わる医療従事者, 患者, 家族の役割を列挙し, 説明できる. 2. 外科治療において医療従事者, 患者, 家族の間で発生しうるトラブルを列記し, その対策を述べることができる. 3) 外科治療と医療制度, 社会制度との関係 <ol style="list-style-type: none"> 1. 外科治療において医療制度や社会制度が提供するリソースを挙げ, それらの役割を説明できる. 2. 外科治療に関連する医療制度や社会制度上の問題点を列挙し, それらの対策を述べることができる. 3. 外科治療において, 今後新たに必要となる医療制度や社会制度について列記し, 説明できる. 		
授業のすすめ方	症例が医療機関を受診し, 外科治療を受けるプロセスを中心に, 外科治療と医療経営・管理の関わりについて学習する.		
教科書及び参考書	国民衛生の動向 (財) 厚生統計協会刊行		
OFFICE HOUR			
試験・成績評価	レポート 100%		

科目別授業内容

(2) 共通基礎科目群

授業科目群名	共通基礎科目群		
授業科目名	医療マーケティング論－医療におけるマーケティングの実際と課題		
開講学期	2年次・前期	単位数	2
担当教員	非開講		
授業の概要	<p>I. 一般学習目標</p> <p>医療マーケティング論では、医療サービス提供者が、患者のニーズ(ある充足状況が奪われている状態)やウオント(ニーズを満たすために特定のものが欲しいという欲求)を満たす社会的・管理的プロセスを学ぶ。</p> <p>II. 個別行動目標 次の質問を説明できる</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 戦略マーケティングの特徴について述べよ 2) 医療介護において商品を決め、マーケティング・ミクスによる戦略の概略を述べよ 3) BCG マトリックスと GE マトリックスを比較せよ 4) バランスト・スコアカードが経営改善につながるための条件について述べよ 5) 自由回答法, 二項選択法, 多項選択法, 順位質問表, 評定尺度法の長所と欠点を比較せよ 6) バランスト・スコアカードが経営改善につながるための条件について述べよ 7) 従業員満足度調査はどのように活用すべきか 8) 行動経済学を定義し、行動経済学による理論を整理せよ 9) ナッジを定義し、ナッジを用いた行動変容の方法論について述べよ 10) 患者の心を理解するにはどのような仕組みが必要か 11) 高齢者の栄養ケア・マネジメントについて述べよ 12) 高齢者の嚥下・摂食支援について述べよ 13) CCRC の特徴について述べよ 14) デンマークの在宅ケアの特徴について述べよ 15) 地域包括ケアを定義せよ <p>III. 講義内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療マーケティングにおける戦略と市場分析 2) 市場の選択, マーケティング・ミクス, 競争戦略 3) ブルーオーシャン戦略, 成長戦略 4) バランスト・スコアカード 5) マーケティング・リサーチ 6) 医療サービスの特徴, 患者満足度と従業員満足度 7) ソーシャル・マーケティング 8) 行動経済学の基礎 9) ナッジと行動変容 10) 患者さんの心を可視化するツールの開発 11) 高齢者の栄養ケア・マネジメント 12) 高齢者の嚥下・摂食支援 13) 米国の CCRC (Continuing Care Retirement Community) から学ぶ 14) 未来への構築 「日本型 CCRC」-最期まで自立を目指す新たな地域包括ケアシステム- 		

	15) 地域包括ケアシステム時代の病院の役割 16) 試験
授業のすすめ方	講義はマーケティング論テキストに沿って行う。学生はキーワードと課題を押さえておくこと。
教科書及び参考書	医療マーケティング論テキスト(最初の講義で配布する)
OFFICE HOUR	適宜相談に応じる。Eメールによる事前予約がのぞましい。
試験・成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参加態度, ディスカッションポイントの把握と対応力 20% ・試験 80% 最終試験は, キーワードから 20 題, 課題から2題出題する。

授業科目群名	共通基礎科目群		
授業科目名	医療の質概論		
開講学期	1年次・後期	単位数	2
担当教員	鴨打 正浩(世話人), 入江 芙美		
授業の概要	<p>I. 一般学習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療の質を評価し, 改善する能力を身につける. 2. 医療現場における質について考察し, 次世代の医療を創造することができる. <p>II. 個別行動目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療における質とは何かを説明する. 2. 医療の質に関する歴史的背景を述べる. 3. 国内外における医療の質改善に関する取り組みを説明する. 4. 臨床指標を列挙する. 5. 医療現場における医療の質を測定する. 6. 医療の質に関連する問題を考察する. 7. 医療の質改善のための方策を立案する. <p>講義内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療における質概論 I 2. 医療における質概論 II 3. 医療の標準化と PDCA サイクル 4. 品質管理 5. 医療の質の測定 6. クオリティインディケータ 7. 医療情報 8. クリティカルパス 9. 医療の質と ICT 利活用 10. 医療安全 11. 感染対策 12. 遠隔医療 13. 医療サービス 14. 医療システム 15. 総合討論 		
授業のすすめ方	講義を中心として, 適宜ワークショップ, グループディスカッション, 総合討論などを行う.		
教科書及び参考書	David B. Nash, Neil I. Goldfarb: The Quality Solution. The stakeholder's guide to improving health care. Jones and Bartlett Publishers.		
OFFICE HOUR	他の用務がなければ常時質問, 相談に応じる.		
試験・成績評価	受講態度(授業に対する意欲, 関心, 発言等)40%および提出課題 60%により採点を行う.		

授 業 科 目 群 名	共通基礎科目群		
授 業 科 目 名	医療安全管理論 ―医療の現場における安全管理		
開 講 学 期	1年次・後期【対面授業(土日集中講義)】	単位数	2
担 当 教 員	鴨打 正浩(世話人), 鮎澤 純子		
授 業 の 概 要	<p>I. 一般学習目標</p> <p>(1) 近年の日本及び諸外国における安全管理をめぐる取り組みと研究の現状と動向を理解する。</p> <p>(2) 医療安全に関する基本的な事項を理解する。</p> <p>(3) 日本の医療の現場における具体的な取り組みについて理解し,現場の職業人に必要な知識と技術を修得する。</p> <p>(4) 日本の医療の現場における安全管理及びリスクマネジメントに関する問題点を整理し,今後の課題及びこれからの取り組みのありかたについて自らの意見を述べるができる。</p> <p>II. 個別行動目標</p> <p>以下の項目について理解し説明することができる(意見を述べるができる)</p> <p>*オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(オリエンテーションを通して)本講義の内容と意図を理解し,説明することができる。 <p>1. 「安全管理」の基本的な考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療の不確実性と医療システムの脆弱性 ・安全管理の必要性と基本的な考え方 <p>2. 近年の医療安全に関する研究と取り組みの経緯と動向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年の日本及び諸外国における医療安全に関する研究の経緯と動向 ・近年の日本及び諸外国における医療安全に関する取り組みの経緯と動向 <p>3. 報告制度: エラーから学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エラーから学ぶ意義 ・院外・院内の報告制度 <p>4. エラーの構造(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エラーの種類 ・エラーが起きる構造とエラーが事故に至る構造 ・「エラー防止」「事故防止」「拡大防止」の方法論 ・代表的なエラーの防止策 <p>5. エラーの構造(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒューマンエラーの特徴 ・ヒューマンエラーの防止策 <p>6. 安全管理に関する基本的な事項: (1) 基本的な事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「fool proof」「fail safe」「5S」「スイスチーズモデル」「KYT」「ヒューマンエラー」「HRO」「レジリエンス」などの医療安全に関する基礎的な事項 <p>7. 安全管理に関する基本的な事項: (2) 分析手法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「RCA」「FMEA」などの基本的な分析モデルの考え方と方法 <p>8. コミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全管理における医療従事者間のコミュニケーションの重要性 ・医療従事者間におけるコミュニケーションの手法 <p>9. 安全管理の実務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療安全に関連する法律とその内容 ・医療現場における医療安全管理体制 ・医療安全管理者の役割 		

	<p>10. 事故発生時の対応：(1)リスクコミュニケーションとクライシスコミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事故発生時の対応のポイント ・ 近年の「共感の表明」と「謝罪」に対する考え方 ・ 「リスクコミュニケーション」と「クライシスコミュニケーション」の概要 <p>11. 事故発生時の対応：(2) 事故調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保全と記録の重要性 ・ 事故調査の目的 ・ 「事故調査」と「事故調査報告書」の考え方と実務及び今後の課題 <p>12. 医療安全に関連する法的責任及び賠償責任の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療安全に関連する法的責任 ・ 賠償責任の考え方 <p>13. 医療安全に関連する法的諸問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療安全に関連する法的諸問題 <p>14. 医療安全に関するトピックス</p> <p>15. 事故に学ぶ：ケーススタディ</p> <p>Ⅲ 講義内容</p> <p>1. オリエンテーションと「安全管理」の基本的な考え方</p> <p>2. 近年の医療安全に関する研究と取り組みの経緯と動向</p> <p>3. 報告制度：エラーから学ぶ</p> <p>4. エラーの構造(1)</p> <p>5. エラーの構造(2)</p> <p>6. 安全管理に関する基本的な事項：(1)基本的な事項</p> <p>7. 安全管理に関する基本的な事項：(2)分析手法</p> <p>8. コミュニケーション</p> <p>9. 安全管理の実務</p> <p>10. 事故発生時の対応：(1)リスクコミュニケーションとクライシスコミュニケーション</p> <p>11. 事故発生時の対応：(2) 事故調査</p> <p>12. 医療安全に関連する法的責任及び賠償責任の考え方</p> <p>13. 医療安全に関連する法的諸問題</p> <p>14. 医療安全に関するトピックス</p> <p>15. 事故に学ぶ：ケーススタディ</p>
授業のすすめ方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的に講義形式とするが、適宜出席者による発表、相互討論等を求める。 ・ 講義スケジュールならびに内容は、受講生の基礎知識のレベル及びばらつき、スケジュールや内容に対する要望、また講師のスケジュール調整等によって変更することがある。
教科書及び参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的に毎回配布資料を使用する。 ・ 教科書及び参考書については、随時授業のなかで指定・紹介する。
OFFICE HOUR	<p>特に設定しない。原則として教員在室の際は随時質問・相談等に応じるが、事前にアポを取ることが望ましい。</p>
試験・成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 積極的な授業参加，ディスカッションポイントの把握と対応力:50% ・ 期末試験とレポート:50%

授業科目群名	共通基礎科目群		
授業科目名	医療オーガナイズ論		
開講学期	1・2年次・前期【オンライン授業(土日集中講義)】	単位数	2
担当教員	鴨打 正浩(世話人), 馬場園 明		
授業の概要	<p>I. 一般学習目標</p> <p>医療をオーガナイズするためには、広い知識と判断力が必要であり、科学性や合理性だけでは十分ではなく、社会的な価値の共有とか合意といった哲学や倫理的問題も考慮されなければならない。取り上げる内容は、因果関係論、組織マネジメント論、リーダーシップ論、医療財務、医療・介護連携、健康の支援、生命倫理学などを取り上げる。</p> <p>II. 個別行動目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 因果関係を定義せよ 2) 因果関係の意思決定について考慮しなければならない事項について述べよ 3) 組織の変革のタイミングと実践のプロセスについて端的に述べよ 4) ドラッカーは、マネジメントとは何であると言っているか 5) ドラッカーは、マネジャーに求められることは何であると言っているか 6) 損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書の関係について述べよ 7) 収益性分析、安定性分析、生産性分析を組み合わせ、医療経営の戦略にどのように用いることができるか 8) 損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書の関係について述べよ 9) 水平統合に向けた入退院支援の方法について述べよ 10) 地域共生社会において地域ケア会議に求められる機能について述べよ 11) 脳卒中に対する、ICF の考え方による支援について述べよ 12) コヘレンス感は健康に良い影響を与えるのはなぜか 13) 退行した高齢者への対応の原則について述べよ 14) インフォームド・コンセント、安楽死における生命倫理の原則について述べよ 15) 生殖技術、脳死、臓器移植における生命倫理の原則について述べよ <p>III. 講義内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) イントロダクション、医学・医療における因果関係 2) 医学における因果関係の推論－意思決定－ 3) 組織マネジメント論とリーダーシップ論 4) ドラッカーのマネジメント 5) ドラッカーのマネジャー 6) 財務管理概論と財務諸表の読み方 7) 病院会計と経営分析 8) 医療機関の財務改善 9) 医療の連携と統合 10) 地域共生社会と地域ケア会議・社会的処方 		

	<p>11) 健康の概念と健康政策</p> <p>12) 健康支援学の理念と視座</p> <p>13) 高齢者のこころの支援</p> <p>14) インフォームド・コンセントと安楽死</p> <p>15) 生殖技術と臓器移植</p> <p>16) 最終試験</p>
授業のすすめ方	講義は医療オーガナイズ論テキストに沿って行う。学生はキーワードの定義と課題を押さえておくこと。
教科書及び参考書	医療オーガナイズ論テキスト(最初の講義で配布する)
OFFICE HOUR	適宜相談に応じる。Eメールによる事前予約がのぞましい。
試験・成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参加態度, ディスカッションポイントの把握と対応力 20% ・試験 80% <p>最終試験は, キーワードから 20 題, 課題から2題出題する.</p>

授業科目群名	共通基礎科目群		
授業科目名	医療疫学		
開講学期	1年次【対面授業(土日集中講義)】	単位数	2
担当教員	松尾 龍		
授業の概要	<p>I. 一般学習目標 保健・医療科学分野における疫学の役割やその思考法を理解したうえで、医療現場における疫学研究とその活用についてより理解を促進する。</p> <p>II. 個別行動目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療現場における疫学研究について十分に理解し、結果の解釈と批判的吟味を適切に行い、議論ができる。 2. 医療現場における疫学研究を用いた、解決すべき課題の提案と疫学的アプローチによる課題解決の実践について学ぶ。 3. 最新の疫学研究を自ら調査し、説明できる。 <p>III. 授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床疫学概論Ⅰ 2. 臨床疫学概論Ⅱ 3. 臨床疫学概論Ⅲ 4. 介入実験疫学Ⅰ 5. 介入実験疫学Ⅱ 6. 介入実験疫学Ⅲ 7. データベース疫学Ⅰ 8. データベース疫学Ⅱ 9. データベース疫学Ⅲ 10. 社会疫学Ⅰ 11. 社会疫学Ⅱ 12. 社会疫学Ⅲ 13. 演習Ⅰ 14. 演習Ⅱ 15. 総括・総合討論 		
授業のすすめ方	先に「疫学」を受講しておくこと。 講義と演習を行い、質疑・討論を行い、理解を深める形態をとる。 演習では、英文の文献を用いて議論する。		
教科書及び参考書	適宜案内する		
OFFICE HOUR	常時。Eメール等による事前のアポイントメントを取ることが望ましい。		
試験・成績評価	・積極的な授業参加，ディスカッションポイントの把握と対応力：50% ・レポート：50%		

授業科目群名	共通基礎科目群		
授業科目名	社会医学		
開講学期	1年次・前期・後期	単位数	1
担当教員	白元 洋介		
授業の概要	<p>I. 一般学習目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療の現場において死がどのように扱われているか学習するために、死とは何かをその現象から理解し、その判定が必ずしも容易でない場合もあることを理解する。 ・医療事故・医療過誤・医事訴訟には様々なとらえ方があることを理解する。 ・社会医学の研究成果が直ちに社会の利益として反映されていることを理解する。 <p>II. 個別行動目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法医学的知識・医事法規を修得する。 ・死亡診断書と死体検案書の違いを理解する。 ・異常死について理解し、正しい異常死体の取扱いができる。 ・児童虐待について理解し、実務的な対応を修得する。 <p>特に以下の項目について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会医学における法医病理学 <ul style="list-style-type: none"> 死とは何か、体死と細胞死について理解する。 突然死について理解する。 ・社会医学における中毒学 <ul style="list-style-type: none"> 医療の中での中毒学の特徴、特殊性について理解する。 ・社会医学における血清学 <ul style="list-style-type: none"> DNA 多型について理解し、その社会医学的応用について理解する。 ・社会医学における病院の役割 <ul style="list-style-type: none"> 乳幼児の虐待について社会医学の面から理解する。 救急現場で必要な社会医学的知識について理解する。 ・社会医学における医療事故 <ul style="list-style-type: none"> 医療事故に対して法律家、弁護士、医学者でとらえ方が違うことを理解する。 <p>個別テーマ</p> <p>法医学概論 死亡診断書・死体検案書 早期死体現象, 晩期死体現象 内因性急死 鋭器損傷, 鈍器損傷 窒息 児童虐待 中毒・アルコール 頭部外傷 異常環境 交通外傷</p>		

授業のすすめ方	対面授業（講義を8時限受講すること）
教科書及び参考書	<p>法医学(監修:福島弘文, 南山堂)</p> <p>死体検案ハンドブック(編著:的場梁次, 近藤稔和, 金芳堂)</p> <p>標準法医学・医事法(編集:石津日出雄, 高津光洋, 医学書院)</p> <p>NEW エッセンシャル法医学(監修:高取健彦, 医歯薬出版)</p> <p>NEW 法医学・医事法(編集:勝又義直, 鈴木修, 南江堂)</p> <p>臨床法医学テキスト(編著:佐藤喜宣, 中外医学社)</p>
OFFICE HOUR	授業時間に続く一定時間をもってこれに充てる.
試験・成績評価	受講態度 20 点, レポート課題 80 点

授業科目群名	共通基礎科目群		
授業科目名	医療行政学		
開講学期	1年次・前期【対面授業(土日集中)】	単位数	2
担当教員	入江 芙美(世話人), 尾形 裕也		
授業の概要	<p>I. 一般学習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 日本の医療行政の基本的な仕組みと特徴を理解する. 2) 国家の行財政システムにおける医療行財政の位置付けを理解する. 3) 近年の重要な医療政策の展開について, 医療行政的な視点から説明できる. <p>II. 個別学習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 日本の統治構造の特色, 国及び地方行財政の基本構造, 並びに医療をめぐるステークホルダーの構造を説明できる. 2) 日本の法制度の基本構造及び医療行政組織の構造を説明できるとともに, 医療関係法令及び予算の決定プロセスを説明できる. 3) 社会保障の範囲及びその中での医療の位置付けを(国際比較も含め)説明できる. 4) 日本の医療保険行政の仕組み及びいわゆる保険者機能論について説明できる. 5) 日本の医療提供行政の仕組み及び医療提供体制改革の方向について説明できる. 6) 高齢者医療制度の設計及び高齢者ケア施設をめぐる政治・政策過程について説明できるとともに, これらについて自分の意見を述べるができる. 7) 地域医療構想及び妊婦加算をめぐる政治・政策過程について説明できるとともに, これらについて自分の意見を述べるができる. <p>III. 具体的講義内容</p> <p>【我が国の医療行政】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 日本の統治構造と行財政の仕組み (2) 法制度の構造と医療行政 (3) 社会保障制度と医療 (4) 医療保険制度と医療行政 (5) 医療提供体制と医療行政 (6) 事例研究 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者医療制度の設計をめぐる議論: 老人保健制度から独立方式の採用まで ・高齢者ケア施設をめぐる議論: 老人病院から療養病床を経て介護医療院へ (7) 事例研究 <ul style="list-style-type: none"> ・地域医療構想をめぐる議論: 病床機能報告と必要病床数への収斂 ・「妊婦加算」をめぐる議論: 診療報酬改定プロセス論等 <p>【医療行政の個別課題の検討(諸外国との比較)】</p> <ol style="list-style-type: none"> (8) 公衆衛生政策 (9) 健康増進 <ul style="list-style-type: none"> ・たばこ対策 (10) 感染症対策 		

	<ul style="list-style-type: none"> ・パンデミック対策 ・予防接種 <p>(11) 高齢社会への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度 ・終末期医療
授業のすすめ方	基本的に講義形式とするが、適宜出席学生の発表や相互討論等を求める。
教科書及び参考書	講義の中で参考文献を紹介するとともに、必要な講義資料を配布する。
OFFICE HOUR	講義期間中は随時質問等に応じる。
試験・成績評価	受講態度 50%および提出課題 50%により評価を行う。

授業科目群名	共通基礎科目群		
授業科目名	医療保障法		
開講学期	1年次・後期	単位数	2
担当教員	秦 淳		
授業の概要	<p>I. 一般学習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療・福祉・公衆衛生に関する各種法令について学習する. 2) 医療保障制度, 生命倫理, 法的責任について学習する. <p>II. 個別学習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療・福祉・公衆衛生に関する各種法令について, わが国の法体系における位置づけ, 具体的な概念, 基本的な知識を得る. 2) 医療保障制度, 生命倫理, 法的責任などの課題について具体的な概念, 基本的な知識を得る. <p>III. 講義内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 総論, 医療従事者に関する法 I 2) 医療従事者に関する法 II 3) 医療従事者に関する法 III 4) 医療に関する法 5) 公衆衛生に関する法 I 6) 公衆衛生に関する法 II 7) 薬品に関する法 8) 社会福祉に関する法 9) 社会保障に関する法 I 10) 社会保障に関する法 II 11) 労働に関する法 12) 環境衛生・食品衛生に関する法 13) 法的責任 I (刑事責任) 14) 法的責任 II (行政責任・民事責任) 15) 試験 		
授業のすすめ方	講義形式		
教科書及び参考書	<p>講義の資料を掲示する. 以下, 参考書をいくつか紹介する.</p> <p>医療法学入門 第3版(大磯義一郎ほか, 医学書院)</p> <p>最新 医療関連法の完全知識 2025年版(安藤秀雄ほか, 医学通信社)</p> <p>看護・医療を学ぶ人のためのよくわかる関連法規 改訂第2版(松原孝明, 学研)</p>		
OFFICE HOUR	特に設定しないが, 適宜相談に応じる(事前にアポイントメントをとること).		
試験・成績評価	<p>積極的な授業参加:40%</p> <p>試験:60%</p>		

授業科目群名	共通基礎科目群		
授業科目名	衛生・公衆衛生学		
開講学期	1年次・後期	単位数	2
担当教員	秦 淳		
授業の概要	<p>I. 一般学習目標</p> <p>1) 保健行政・政策, 基本的な保健統計, 疾病予防, 健康管理について学ぶ.</p> <p>2) 環境要因と社会とのかかわりの中で健康問題を把握し, 対策方法を学ぶ.</p> <p>II. 個別学習目標</p> <p>1) 保健行政・政策, 保健統計, 疾病予防, 健康管理について説明できる.</p> <p>2) 環境・産業保健の現状, 労働安全衛生管理の方法, 職業性疾患とその予防について説明できる.</p> <p>III. 講義内容</p> <p>1) 総論</p> <p>2) 保健統計</p> <p>3) 遠隔医療とオンライン診療 (九州大学病院国際医療部・森山 智彦)</p> <p>4) 生活習慣病対策</p> <p>5) 食品と栄養 I (広島修道大学健康科学部・木村 安美)</p> <p>6) 食品と栄養 II (広島修道大学健康科学部・木村 安美)</p> <p>7) 運動と身体活動 I (九州大学基幹教育院・岸本 裕歩)</p> <p>8) 運動と身体活動 II (九州大学基幹教育院・岸本 裕歩)</p> <p>9) がん対策</p> <p>10) 感染症対策</p> <p>11) 認知症対策</p> <p>12) 母子保健, 学校保健</p> <p>13) 産業保健, 環境保健</p> <p>14) 総括</p>		
授業のすすめ方	講義形式		
教科書及び参考書	講義の資料を掲示する. 以下, 参考書を紹介する. 国民衛生の動向 2025/2026 (厚生労働統計協会)		
OFFICE HOUR	特に設定しないが, 適宜相談に応じる.		
試験・成績評価	積極的な授業参加: 40% 試験: 60%		

授 業 科 目 群 名	共通基礎科目群		
授 業 科 目 名	医療情報学		
開 講 学 期	1年次・後期	単位数	2
担 当 教 員	中島直樹(世話人), 西山謙, 松本晃太郎		
授 業 の 概 要	<p>I. 一般学習目標(GIO)</p> <p>医療情報学の基礎的な概念と実践的な応用を体系的に学び, 医療保険制度も含め, 医療現場や研究において情報を活用・評価・管理できる能力を養う.</p> <p>II. 個別行動目標(SBO)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療保険制度について理解する. 2. 医療情報を取り巻く法制度を理解する. 3. 医療情報を支える情報技術基盤を理解する. <p>III. 授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療保険制度, 医療情報を取り巻く環境 2. 医療情報に関する法制度 3. 電子カルテの構造と機能, 医療情報標準規格 4. 医療情報のセキュリティ 5. 診療報酬制度と請求データベースの概要 6. DPC 制度と DPC データの構造 7. 電子カルテにおける生成 AI 技術の活用 8. データを用いた病院経営支援 9. 行政データベースの概要 10. 行政データベースを用いた研究事例 11. 臨床試験と医療情報 12. リアルワールドデータの利活用 13. これからの医療情報の世界 14. 医療と AI 技術 15. 試験 		
授 業 の す す め 方	講義を中心に進め, 医療情報学の基礎概念や事例, 最新動向などを幅広く習得できるようにする. 必要に応じてディスカッションや演習を取り入れ, 理解の深化と応用力の向上を図る.		
教科書及び参考書	必要に応じて参考文献を講義内で紹介する.		
OFFICE HOUR	常時. Eメール等による事前の予約を取ることが望ましい.		
試 験 ・ 成 績 評 価	積極的な授業参加(40%)および試験(60%)		

科目別授業内容

(3) 必修専門科目群

授業科目群名	必修専門科目群		
授業科目名	医療政策学		
開講学期	1年次・後期	単位数	2
担当教員	入江 芙美(世話人)		
授業の概要	<p>I. 一般学習目標 医療政策学では、資源に限りがあることを前提とし、公正に効率良く医療資源を分配するための制度と技術を学ぶ。</p> <p>II. 個別行動目標 以下の項目について理解し、説明することができる。 1) わが国の社会保障制度の枠組み 2) わが国の保険制度の特徴 3) 医療制度改革の経緯とその狙い 4) 医療政策のステークホルダー 5) 医療政策決定のプロセス 6) 医療政策に関するコミュニケーション</p> <p>III. 講義内容 1) 社会保障制度 2) 医療保険制度 3) 介護保険制度 4) 医療法 5) 地域医療構想 6) 地域包括ケアシステム 7) 国際保健政策 8) 公衆衛生政策(感染症対策, 地域保健等)</p>		
授業のすすめ方	基本的に講義形式とするが、適宜、出席者による発表、グループディスカッション、相互討論等を求める。		
教科書及び参考書	医療政策学テキスト(最初の講義で配布する) 「日本の医療 制度と政策 増補改訂版」島崎謙治 東京大学出版会		
OFFICE HOUR	常時(Eメール等により事前にアポイントメントを取ることが望ましい)		
試験・成績評価	積極的な授業参加:60%および提出課題:40%により採点を行う。		

授業科目群名	必修専門科目群		
授業科目名	医療財政学		
開講学期	1年次・前期	単位数	2
担当教員	福田 治久		
授業の概要	<p>I. 一般学習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 財政学の理論的・実証的な分析手法を学習し、医療財政に対する評価の手法や考え方を理解する。 2) 医療財政に係わる実証研究事例を学習し、エビデンスに基づいた財政戦略を理解する。 3) 医療イノベーションを促進しつつ医療費の適正化を図る分析手法である費用効果分析などの医療経済評価手法を習得する。 <p>II. 個別行動目標</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 財政の役割、財政制度について説明することができる。 ② 医療財政の財源調達システムや経済波及効果を理解し、説明することができる。 ③ 不確実性の経済理論・医療保険制度について学習し、その概要を説明することができる。 ④ 医療財政学からみた医療保険制度の現状と課題及び改革の動向を学習し、その概要を説明することができる。 ⑤ 介護保険制度の制度的な概要について学習し、その概要を説明することができる。 ⑥ 診療報酬の法制度的な仕組み・機能・影響について学習し、その概要を説明することができる。 ⑦ 需要・供給理論および不確実性下における行動理論を学習し、医師誘発需要を定義することができる。 ⑧ 疾病費用を分析・推計するための手法を習得することができる。 ⑨ 医療費助成などの政策の必要性を経済学的に理解し、その影響について説明することができる。 ⑩ OECD SHA 手法に基づいた医療費の国際比較を通じて、日本の財政方式の立ち位置の特徴を説明することができる。 ⑪ 医療経済評価の必要性と先進諸国の導入状況について説明することができる。 ⑫ 医療経済評価における費用の測定手法を習得する。 ⑬ 医療経済評価における効果の測定手法を習得する。 ⑭ 医療経済評価におけるモデリング手法を習得する。 ⑮ 医療経済評価の報告事例を批判的に吟味し、研究成果を正しく解釈することができる。 <p>III. 授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 財政学概論 ② 医療財政学概論 ③ 医療保険財政 ④ 国民皆保険を巡る諸問題 		

	<ul style="list-style-type: none"> ⑤ 介護保険財政 ⑥ 診療報酬制度概論 ⑦ 医療需要と医療費 ⑧ 疾病費用の分析手法 ⑨ 自治体の政策評価 ⑩ 医療財政の国際比較 ⑪ 医療経済評価(1):概要・先進諸国の導入状況 ⑫ 医療経済評価(2):費用の測定 ⑬ 医療経済評価(3):効果の測定 ⑭ 医療経済評価(4):モデリング ⑮ 医療経済評価(5):批判的吟味
授業のすすめ方	基本的に講義形式とするが、適宜出席学生の発表や相互討論等を求める。
教科書及び参考書	講義の中で参考文献を紹介するとともに、必要な講義資料を配布する。
OFFICE HOUR	質問・相談等の日時を事前にEメール等で連絡すること。
試験・成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ● 積極的な授業参加, ディスカッションポイントの把握と対応力(レポート等を含む):50% ● 試験:50%

授 業 科 目 群 名	必修専門科目群		
授 業 科 目 名	医療経営学		
開 講 学 期	1年次・後期	単位数	2
担 当 教 員	福田 治久		
授 業 の 概 要	<p>I. 一般学習目標</p> <p>1) 経営学において発達してきた理論・手法を学習し、医療機関経営に適用・応用することができる。</p> <p>2) 医療経営に係わる研究事例を学習し、科学的エビデンスに基づいた経営のあり方を理解する。</p> <p>II. 個別行動目標</p> <p>1. 医療経営学入門</p> <p>(1) 医療機関経営を経営学的にとらえることの意味を理解し、説明することができる。</p> <p>(2) 医療機関経営の特徴について説明することができる。</p> <p>2. 経営戦略</p> <p>全社戦略・事業戦略のそれぞれについて、戦略の計画・実行・評価の手法を理解し、説明することができる。</p> <p>3. 医療マーケティング</p> <p>マーケティングの意義とプロセスを理解した上で、環境分析、セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング、コミュニケーション等の理論・手法を説明することができる。</p> <p>4. オペレーション戦略</p> <p>(1) 組織全体としての最適化を図るための手法について理解することができる。</p> <p>(2) 病院情報システムの概要および活用手法について説明することができる。</p> <p>5. バランスト・スコアカード</p> <p>バランススコアカードの基礎理論について学習し、医療機関経営における活用方法について説明できる。</p> <p>6. 組織マネジメント</p> <p>(1) 組織行動学に基づき、組織の存在理由について理解し、戦略との関係性について説明することができる。</p> <p>(2) 代表的な組織構造のモデルについて学習し、メリット・デメリットを説明することができる。</p> <p>7. 人材マネジメント</p> <p>組織行動学に基づき、人材の評価システム、報酬システム、能力開発システムの基礎理論を理解し、人的資源の適切な管理手法を説明することができる。</p> <p>8. アカウンティング・ファイナンス</p> <p>(1) 財務管理・管理会計の基本的理解を得て、経営資源をコントロールする手法を説明することができる。</p> <p>(2) 資金調達の状態について学習し、その特徴を理解することができる。</p> <p>9. ケース・スタディ</p> <p>実際の医療機関の経営戦略について学習し、その特徴を理解する。</p>		

	<p>Ⅲ. 授業計画</p> <p>① 医療経営学入門</p> <p>② 経営戦略(1)</p> <p>③ 経営戦略(2)</p> <p>④ 医療マーケティング(1)</p> <p>⑤ 医療マーケティング(2)</p> <p>⑥ オペレーション戦略(1)</p> <p>⑦ オペレーション戦略(2)</p> <p>⑧ バランスト・スコアカード(1)</p> <p>⑨ バランスト・スコアカード(2)</p> <p>⑩ 組織マネジメント</p> <p>⑪ 人材マネジメント</p> <p>⑫ アカウンティング・ファイナンス(1)</p> <p>⑬ アカウンティング・ファイナンス(2)</p> <p>⑭ ケース・スタディ(1)</p> <p>⑮ ケース・スタディ(2)</p>
授業のすすめ方	基本的に講義形式とするが、適宜出席学生の発表や相互討論等を求める。
教科書及び参考書	講義の中で参考文献を紹介するとともに、必要な講義資料を配布する。
OFFICE HOUR	質問・相談等の日時を事前にEメール等で連絡すること。
試験・成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ● 積極的な授業参加, ディスカッションポイントの把握と対応力:50% ● 試験:50%

授業科目群名	必修専門科目群		
授業科目名	医療管理学 —医療における「質の管理」と「安全管理」		
開講学期	1年次・前期	単位数	2
担当教員	松尾 龍(世話人), 鮎澤 純子		
授業の概要	<p>I. 一般学習目標</p> <p>(1)「管理」に関する体系的な知識を修得する。 (2)医療の現場の「管理」に関する知識と理解を深める。 (3)医療における「質の管理」「安全管理」に関する知識と理解を深め、その具体的な実践の手法を修得する。</p> <p>II. 個別行動目標</p> <p>以下の項目について理解し説明することができる(意見を述べることができる)</p> <p>*オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(オリエンテーションを通して)本講義の内容と意図を理解し、説明することができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 1)本講義の内容と意図 2)本講義に関連する現時点での基礎知識 3)終了時の学習到達目標に向けて必要な対策 2. 1)「経営」と「管理」の相違 2)組織における「経営」と「管理」の役割 3)経営資源 3. 1)医療管理学の対象 2)医療の現場における管理の対象 4. 1)組織のモデル 2)産業界における組織管理 5. 1)医療機関の組織構造とそれぞれの部門の役割 2)医療機関の組織構造の特性 3)医療界における組織管理 4)産業界における組織管理の手法の医療界への応用の可能性 6. 1)産業界における「質」の考え方の変遷 2)産業界における「質の管理」の手法 7. 1)医療界における「質」の考え方の変遷 2)医療界における「質の管理」の手法 8. 1)TQMの考え方 2)産業界におけるTQMの実務 3)医療界におけるTQMの実務 9. 1)臨床指標の考え方 2)臨床指標を使った質の管理の実務 10. 1)「質の管理」と「機能評価」 2)日本医療機能評価機構の役割 3)JCとJCIの役割 4)「質の管理」と「ISO」 11. 1)医療の現場における「情報の管理」の重要性 2)電子カルテの現状と課題 3)情報の電子化に関する現状と課題 12. 1)医療の現場における「物の管理」の重要性 2)SPDの現状と課題 13. 日本と諸外国における安全管理の取り組みと研究の現状と動向 14. 1)リスクマネジメント 2)ヘルスケアリスクマネジメント 3)クラススマネジメント 15. 質の管理と安全管理:ケーススタディ <p>III. 講義内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション, 確認試験と医療管理概論 2. 医療管理学入門(1) 3. 医療管理学入門(2) 4. 組織管理(1) 5. 組織管理(2) 		

	<p>6. 質の管理(1):産業界における質の管理</p> <p>7. 質の管理(2):医療界における質の管理</p> <p>8. TQMの実務</p> <p>9. 臨床指標を使った質の管理の実務</p> <p>10. 「質の管理」と「機能評価」「ISO」</p> <p>11. 医療の現場における「物の管理」</p> <p>12. 医療の現場におおける「情報の管理」</p> <p>13. 医療安全管理概論(1)</p> <p>14. 医療安全管理概論(2)</p> <p>15. 質の管理と安全管理:ケーススタディ</p>
授業のすすめ方	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に講義形式とするが、適宜出席者による発表、相互討論等を求める。 ・外部講師の招へいも予定している。外部講師による授業のすすめ方については、外部講師の意向に準じる。 ・講義スケジュールならびに内容は、受講生の基礎知識のレベル及びばらつき、スケジュールや内容に対する要望、また外部講師のスケジュール調整等によって変更することがある。
教科書及び参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に毎回配布資料を使用する。 ・教科書及び参考書については、随時授業のなかで指定・紹介する。
OFFICE HOUR	<p>特に設定しない。原則として教員在室の際は随時質問・相談等に応じるが、事前にアポを取る事が望ましい。</p>
試験・成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な授業参加、ディスカッションポイントの把握と対応力(レポート等を含む):50% ・最終試験とレポート:50%

授業科目群名	必修専門科目群		
授業科目名	健康行動科学		
開講学期	1年次・前期	単位数	2
担当教員	鴨打 正浩(世話人), 荒木 登茂子		
授業の概要	<p>I. 一般学習目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療・健康における人の行動を科学的に分析する能力を修得する. ・医療・健康における人の行動に関する問題を解決する能力を身につける. <p>II. 個別行動目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命・医療における倫理の原則を説明できる. ・生と死にかかわる倫理的問題を説明できる. ・医療・健康にかかわる人の行動を理解する. ・医療・健康にかかわる人の行動が複雑多岐にわたることを説明できる. ・医療・健康にかかわる人の心理状態を感じ, その背景を類推する. ・医療・健康にかかわる人の行動を変える支援ができる. ・医療者と患者の心理状態とその相互作用を理解する. ・病気に対する人の反応を予測できる. ・医療・健康にかかわる現場における会話の役割を説明できる. ・医療・健康にかかわるコミュニケーション技術を習熟する. <p>III. 講義内容</p> <p>1/2 回 医療・健康にかかわる現場のコミュニケーション 3/4 回 医療者－患者関係 5/6 回 病状説明, インフォーム・ドコンセント 7/8 回 行動変容 9/10 回 生命・医療倫理 11/12 回 患者中心性 13/14 回 ストレスマネジメント 15 回 事例検討・ワークショップ</p>		
授業のすすめ方	患者, 医療者の医療・健康にかかわる行動について討議する. 適宜講義を交え, ワークショップ, グループディスカッションを通して学習する.		
教科書及び参考書	講義資料を適宜配布する.		
OFFICE HOUR	他の用務がなければ常時質問, 相談に応じる.		
試験・成績評価	受講態度 40%, 提出課題 60%により評価する.		

授業科目群名	必修専門科目群		
授業科目名	疫学		
開講学期	1年次・前期	単位数	2
担当教員	秦 淳(世話人), 二宮 利治		
授業の概要	<p>I. 一般学習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 疫学の役割を理解する. 2) 保健・医療科学分野で疫学の考え方を理解する. 3) 必要に応じて, 疫学的手法を応用できる. <p>II. 個別学習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 疫学とは何か, その歴史や思考について説明できる. 2) 疫学研究の内容について理解し, 説明できる. 3) 疫学研究の結果を正しく解釈できる. 4) 自らの課題に対して疫学的手法を用いて解決することができる. <p>III. 講義内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 総論 2) 主な疫学指標, わが国の保健統計 3) 疫学研究の方法 I 4) 疫学研究の方法 II 5) バイアスと交絡, 因果関係 6) スクリーニング, サーベイランスと疾病登録 7) 臨床疫学 8) 疫学研究に必要な統計 I 9) 疫学研究に必要な統計 II 10) 疫学と倫理, 疫学の社会への応用 11) 疫学論文の探し方, 読み方, 書き方 12) 疫学研究の実際 I (循環器疾患の疫学) (衛生・公衆衛生学分野 二宮 利治) 13) 疫学研究の実際 II (認知症の疫学) (精神病態医学分野 小原 知之) 14) 疫学研究の実際 III 15) 試験 		
授業のすすめ方	講義を行いながら, 適宜, 質疑・討論を行い, 理解を深める形態をとる.		
教科書及び参考書	<p>講義の資料を掲示する. 以下, 参考書をいくつか紹介する.</p> <p>基礎から学ぶ楽しい疫学 第4版(中村好一, 医学書院)</p> <p>はじめて学ぶやさしい疫学 第4版(日本疫学会, 南江堂)</p>		
OFFICE HOUR	特に設定しないが, 適宜相談に応じる(事前にアポイントメントをとること).		
試験・成績評価	<p>積極的な授業参加: 40%</p> <p>試験: 60%</p>		

授業科目群名	必修専門科目群		
授業科目名	医学統計学 ー講義及び演習		
開講学期	1年次・前期	単位数	2
担当教員	松尾 龍(世話人), 松本晃太郎		
授業の概要	<p>I. 一般学習目標(GIO) 統計学の基本的知識の習得とともに、保健・医療科学分野における統計学の役割や統計学を用いたデータ、研究を理解し、自ら統計学的手法を用いて解析できる。</p> <p>II. 個別行動目標(SBO)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 統計学の基本的な知識を習得し、その役割を説明できる。 2. 統計学で示されたデータや統計学を用いた研究について理解し、解釈できる。 3. 自ら統計学的手法を用いた解析を行うことができる。 <p>III. 授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 統計学の基本 I : 統計量, 分布, データ, 記述統計 (講義) 2. 統計学の基本 I : 統計量, 分布, データ, 記述統計 (演習) 3. 統計学の基本 II : 確率と確率分布, 統計学的検定と推定 (講義) 4. 統計学の基本 II : 確率と確率分布, 統計学的検定と推定 (演習) 5. 二変量の関係 相関関係と分割表 (講義) 6. 二変量の関係 相関関係と分割表 (演習) 7. 二群間の比較 (講義) 8. 二群間の比較 (演習) 9. 分散分析 (講義) 10. 分散分析 (演習) 11. 線形回帰 (講義) 12. 線形回帰 (演習) 13. ロジスティック回帰 (講義) 14. ロジスティック回帰 (演習) 15. 試験 		
授業のすすめ方	統計学の基本的な事項の講義を行うとともに、統計解析ソフト(JMP)を用いた演習を行う。演習の際には、個人で利用できる端末を各自用意すること。		
教科書及び参考書	基礎医学統計学, 加納克己/高橋秀人, 南江堂, 東京, 2019 ハーバード大学講義テキスト 生物統計学入門, Marcello Pagano/Kimberlee Gauvreau 著, 竹内正弘 監訳, 丸善, 東京, 2003		
OFFICE HOUR	常時. Eメール等による事前の予約を取ることが望ましい。		
試験・成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な授業参加姿勢 20% ・試験 80% 		

授業科目群名	必修専門科目群		
授業科目名	環境保健学		
開講学期	1年次・後期	単位数	2
担当教員	松尾 龍(世話人), 入江 英美		
授業の概要	<p>I. 一般学習目標 環境と人間の関わりについて、特に健康に及ぼす影響について学ぶ。</p> <p>II. 個別行動目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境保健学分野における重要な概念について理解し、説明できる。 ・環境保健学分野におけるエビデンスの概要について理解し、説明できる。 ・環境要因による健康リスクに関する科学的データの評価及び批判的吟味ができる。 ・行政機関における公衆衛生上の課題やその解決策について、環境疫学的手法を用いてアプローチできる。 <p>III. 授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境保健学概論 I 2. 環境保健学概論 II 3. 公害による健康被害 I 4. 公害による健康被害 II 5. 環境リスクと子どもの健康 I 6. 環境リスクと子どもの健康 II 7. 大気汚染とその健康影響 I 8. 大気汚染とその健康影響 II 9. 労働環境とその健康影響 I 10. 労働環境とその健康影響 II 11. 食品安全 I 12. 食品安全 II 13. カネミ油症の健康被害 14. 気候変動と健康 15. 総合討論・総括 		
授業のすすめ方	講義及び演習形式とする。		
教科書及び参考書	講義の際に、資料を適宜配布する。		
OFFICE HOUR	事前にアポイントメントをとること。		
試験・成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参加姿勢、ディスカッションポイントの把握と対応力 40% ・レポート 60% 		

授業科目群名	必修専門科目群		
授業科目名	演習Ⅰ・Ⅱ－医療経営管理・研究		
開講学期	2年次・前期・後期	単位数	2
担当教員	鴨打 正浩		
授業の概要	<p>I. 一般学習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療を改善するために、医療に関する諸問題を同定し、測定・定量化する。 2. 問題点を疫学・統計学的手法を用いて科学的に解析する。 3. それぞれの課題の解決策を見出し、標準化することで医療の改善に寄与する。 4. これらの学習を通じて、医療経営・管理に関する諸問題を解決する能力を身につける。 5. 得られた結果を学術研究として成果物にまとめる。 <p>II. 個別行動目標</p> <p>本演習では医療管理を共通テーマとするが、研究分野は問わない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究の仮説を設定する。 ・ 研究の目的を説明する。 ・ 文献の検索を行い、先行研究を含めた背景を調べる。 ・ 研究計画書を作成する。 ・ 指標を標準化する。 ・ 指標を測定し、定量化する。 ・ データを収集する。 ・ データベースを作成する。 ・ 基本統計量を求め、単変量解析を行う。 ・ 二変量解析、多変量解析を行う。 ・ 質的なアウトカムを解析する。 ・ 量的なアウトカムを解析する。 ・ 研究発表を行う。 ・ 科学的論文を作成する。 		
授業のすすめ方	<p>定期的に研究ゼミを開催する。</p> <p>研究仮説の設定、文献の検索、データの収集、分析、論文の書き方を指導する。</p> <p>学生自身が研究内容を発表するとともに、他の学生や共同研究者の発表を聞いて討論する。</p>		
教科書及び参考書	テーマに沿って適宜指示する。		
OFFICE HOUR	個別に相談に応じる。		
試験・成績評価	演習への積極的参加(発言)50%、成果物50%とする。		

授 業 科 目 群 名	必修専門科目群		
授 業 科 目 名	演習Ⅰ・Ⅱ－医療経営管理・研究		
開 講 学 期	2年次・前期・後期	単位数	2
担 当 教 員	松尾 龍		
授 業 の 概 要	<p>I. 一般学習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療経営・管理学分野における課題を学生自ら設定する. 2) 課題に関する先行研究を調査し, 学術論文を熟読し理解する. 3) 問題解析のためのアプローチとして統計学的手法を用いて科学的に検証する. 4) 結果を適切に解釈し, 批判的吟味を加えた考察を行う. <p>II. 個別行動目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 研究課題を設定し, 研究仮説を立案する. ● 先行研究を学術専門誌より調査し, 理解する. ● 研究計画書を作成し, 研究の目的と背景, 方法を説明できる. ● 評価項目を定義し, 統計学的手法を用いて科学的に証明できる. ● 結果について説明し, 解釈することができる. ● 批判的吟味を行い, 結果について十分な議論を行うことができる. ● 研究成果について, 学会におけるプレゼンテーションや成果物としてまとめることができる. <p>III. 授業日程</p> <p>1 年後期 研究課題の企画, 先行研究の調査 2 年前期 統計解析手法を用いた解析やまとめ 2 年後期 成果物作成</p>		
授 業 の す す め 方	原則として定期的な演習形式で行う. テーマや進行に応じて個別指導も行う.		
教科書及び参考書	個別に適宜指示する.		
OFFICE HOUR	個別相談可. 事前に電話またはメールでの予約が望ましい.		
試 験 ・ 成 績 評 価	演習における積極的な発言, ディスカッションなど参加姿勢 50%, 成果物 50%		

授業科目群名	必修専門科目群		
授業科目名	演習Ⅰ・Ⅱ－医療経営管理・研究		
開講学期	2年次・前期・後期	単位数	2
担当教員	秦 淳		
授業の概要	<p>I. 一般学習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療, 福祉, 公衆衛生における諸問題について, 課題を設定する. 2) 設定した課題に関する知識を得るために, 過去の文献等を調査し, 熟読する. 3) 研究計画を立案し, 必要な情報, データの収集を行う. 4) 疫学・統計学的手法を用いてデータを解析し, 科学的検証, 考察を行う. 5) 得られた結果を, 学術研究の成果物にまとめる. <p>II. 個別学習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 関連する先行研究の文献検索を行い, 研究の背景を把握する. 2) 研究の仮説を設定し, 研究の目的, 背景, 方法について研究計画書を作成する. 3) 標準化された質問紙, 測定方法などを用いて, 必要な情報, データを収集する. データの収集・活用において, 個人情報保護など倫理的な配慮を行う. 4) データベースを整備し, 適切な統計手法を用いて科学的に分析する. 5) 調査におけるバイアスや, 因果関係を歪める交絡, 交互作用を十分考慮しながら, 結果を丁寧に解釈する. 必要に応じて, 多変量解析や層別解析を用いた検討を行う. 6) 得られた結果について, 先行研究の報告との関連性, 生物学的整合性, 社会や臨床への活用の可能性に関して考察する. 研究の長所と限界点 (limitation) についても考察する. 7) 研究の成果物を作成する. さらに, 学会発表や学術論文作成を検討する. 		
授業のすすめ方	定期的な演習形式で行う. テーマや進行に応じて個別指導を行う.		
教科書及び参考書	個別の演習テーマに応じて適宜指示する.		
OFFICE HOUR	個別に相談に応じる(事前にアポイントメントをとることが望ましい).		
試験・成績評価	演習への積極的参加:50% 成果物 50%		

授業科目群名	必修専門科目群		
授業科目名	演習Ⅰ・Ⅱ－医療経営管理・研究		
開講学期	2年次・前期・後期	単位数	2
担当教員	福田 治久		
授業の概要	<p>Ⅰ 一般学習目標</p> <p>本演習では、医療ビッグデータ時代に勝ち残るために、医療レセプトデータ・介護レセプトデータ・健診データなどのリアルワールドデータを用いて、リサーチクエスチョンからデータ解析および研究報告までの全過程を経験し、自らデータベース研究を実施可能な技術を習得することを目的とする。</p> <p>Ⅱ 個別行動目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● レセプトデータについて説明することができる。 ● リサーチクエスチョンから研究デザインを立案することができる。 ● 研究デザインにそって必要なデータを選択することができる。 ● 統計解析ソフト R/RStudio を用いて必要なデータを形成することができる。 ● 検証に適した統計学的手法を選択し、適切な解析を実施することができる。 ● 研究成果を学会発表・論文発表することができる。 <p>Ⅲ 演習の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ● データベース研究に関する論文輪読を通じて医学論文の書き方を学びます。 ● 統計解析ソフト R/RStudio を用いたデータベース研究を実施します。 ● 教員が構築している LIFE Study*のビッグデータを使用します。 ● 教員のサポートを得て学会発表あるいは論文発表を行います。 <p style="text-align: right;">*LIFE Study: 自治体が保有している医療・介護・保健・行政のデータを住民別に突合した大規模多地域研究のデータベース・プロジェクト. 40 自治体・500 万人・10 年分のデータを蓄積したリアルワールドデータ。</p>		
授業のすすめ方	ゼミ形式・個別指導		
教科書及び参考書	個々の研究テーマに沿って、必要に応じて指示する。		
OFFICE HOUR	質問・相談等の日時を事前に Eメール等で連絡すること。		
試験・成績評価	評価は、最終成果物論文(100%)とする。		

授 業 科 目 群 名	必修専門科目群		
授 業 科 目 名	演習Ⅰ・Ⅱ－医療経営管理・研究		
開 講 学 期	2年次・前期・後期	単位数	2
担 当 教 員	入江 芙美		
授 業 の 概 要	<p>I. 一般学習目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療の現場で直面する諸問題について、問題を分析・記述し、普遍的な課題を見出す能力を身につける。 課題を解決するための方策を立案し、現場での実践を行い、方策の有用性を検討する能力を身につける。 これらの学習を通じて、医療の現場で直面する諸問題の解決において中心的役割を担うための能力を涵養する。 <p>II. 個別行動目標</p> <p>以下の個別ステップを経験することで、一般学習目標に掲げた事項を達成することを目指す。なお、以下の全ステップを通じて適宜、演習において発表し、教官及び他の学生との討議を重ねる。また、研究内容については、中間発表会を経た上で、最終成果物としてとりまとめ、発表する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生自らが、これまでの実務経験の中で感じた疑問を元に、医療政策分野の研究テーマを設定する。 2. 実務経験の中で感じた疑問について、関連する法規や制度を整理する。 3. 実務経験の中で感じた疑問について、先行研究を調査する。 4. 実務経験の中で感じた疑問を、普遍的な研究課題に変換する。 5. 研究課題について、検証すべき仮説を設定する。 6. 仮説検証のためのデータ収集・解析等を行う。 7. データ解析の結果について批判的吟味を加え、考察する。 8. 研究内容をまとめて、成果物を作成する。 		
授 業 の す す め 方	基本的に演習(ゼミ)形式とするが、併せて、各学生のテーマに応じた個別指導を行う。		
教 科 書 及 び 参 考 書	テーマに沿って適宜指示する。		
OFFICE HOUR	個別に相談に応じる。事前にアポイントを取ることが望ましい。		
試 験 ・ 成 績 評 価	演習への参加状況(積極的な参加)50%、成果物50%とする。		

科目別授業内容

(4) 選択専門科目群

授 業 科 目 群 名	選択専門科目群		
授 業 科 目 名	ケアコミュニケーション論		
開 講 学 期	1年次・後期【対面授業(土日集中講義)】	単位数	2
担 当 教 員	鴨打 正浩(世話人), 荒木 登茂子		
授 業 の 概 要	<p>I. 一般学習目標(GIO)</p> <p>患者やチーム医療の担い手である医療従事者を多面的に理解するために必要な知識を習得する.</p> <p>II. 個別行動目標(SBO)</p> <p>①臨床コミュニケーションの重要性を理解する.</p> <p>②患者を多面的に理解したうえで, 患者に対する望ましい対応を習得する.</p> <p>③患者心理の理解に必要な心理療法の理論やライフサイクルについての知識を得る.</p> <p>III. 講義の概要</p> <p>①医療分野におけるコミュニケーションの重要性</p> <p>②医療現場における患者心理の理解の重要性</p> <p>③事例を通して患者心理や患者の理解について学ぶ</p> <p>④コミュニケーションの持つ力 言語的・非言語的コミュニケーション</p> <p>⑤傾聴技法 効果的な聞き方 ききみみ</p> <p>⑥～⑦医療現場でのコミュニケーションのずれや不満に対する対応</p> <p>⑧～⑨チーム医療と医療従事者のストレスマネジメント</p> <p>⑩～⑮ライフサイクルと発達課題</p> <p>乳児期・幼児期・児童期前期・児童期後期・青年期・成人期・中年期・老年期</p>		
授 業 の す す め 方	<p>①講義</p> <p>②実習</p> <p>なお, 授業は後期に集中講義形式で行う.</p> <p>日程については受講登録前に連絡するが, 土日が含まれる可能性がある.</p>		
教 科 書 及 び 参 考 書	必要時に関連資料を配布する.		
OFFICE HOUR	講義期間中は随時質問等に応じる.		
試 験 ・ 成 績 評 価	平素の参加態度 50%, 及びレポート 50%により評価する.		

授業科目群名	選択専門科目群		
授業科目名	医療経済学		
開講学期	1年次・前期【対面授業(土日集中講義)】	単位数	2
担当教員	松尾 龍(世話人), 尾形 裕也		
授業の概要	<p>I. 一般学習目標 保健医療分野における課題を経済的視点から評価することの意義と役割, 考え方について理解する.</p> <p>II. 個別行動目標 1. 医療経済学についてその意義と役割について理解し, 説明できる. 2. 保健・医療科学分野における課題について医療経済学的評価を行い, 議論するとともに解決のためにアプローチできる.</p> <p>III. 授業計画 (日程により順序が入れ替わることがある) 1) 医療経済学概論 I 2) 医療経済学概論 II 3) 医療経済学概論 III 4) 行政からみた医療経済学 I 5) 行政からみた医療経済学 II 6) 行政からみた医療経済学 III 7) 財政破綻と医療 (夕張市の例から考える医療破綻) I 8) 財政破綻と医療 (夕張市の例から考える医療破綻) II 9) 財政破綻と医療 (夕張市の例から考える医療破綻) III 10) 経済学からみた保健医療サービス I 11) 経済学からみた保健医療サービス II 12) 費用対効果分析 I 13) 費用対効果分析 II 14) 総括・総合討論 I 15) 総括・総合討論 II</p>		
授業のすすめ方	講義を行いながら, 随時質疑・討論を中心に理解を深める形態をとる. 演習では, 身近な医療問題についてグループディスカッションによる討論を行う. 特別講義では臨床現場と行政の立場から医療のあり方について専門家とともに意見交換する.		
教科書及び参考書	英文の参考教科書として, 下記を推奨する. Folland S. The Economics of Health and Health Care. 7 th edition, PEARSON		
OFFICE HOUR	常時. Eメール等による事前の予約を取ることが望ましい.		
試験・成績評価	・授業参加態度, ディスカッションポイントの把握と対応力 40% ・レポート 60%		

授 業 科 目 群 名	選択専門科目群		
授 業 科 目 名	医療訴訟論		
開 講 学 期	1年次・後期【対面授業(土日集中講義)】	単位数	2
担 当 教 員	鴨打 正浩(世話人), 五十川 直行		
授 業 の 概 要	<p>I. 一般学習目標(GIO)</p> <p>法律学(ことに, 民法法学)上の理論的・実践的観点から, 「信頼に値する医療」へ向けた基本的な法的思考方法等を体得することを目標とする。</p> <p>具体的には,</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 医療実践と法制度との関わりにつき, その法的枠組みの基本を理解する。 ② ことに, 患者－医療従事者関係の法的ありかたにつき, その本質を理解する。 ③ 医療事故訴訟や近時の論争点につき, その基本的な問題の所在を理解する。 <p>II. 個別行動目標(SBO)</p> <ul style="list-style-type: none"> (1, 2) 法制度一般につき, 主体的な関心を抱き, かつ, 一定の考究を得る。 (3, 4) 医療に関わる諸種の法制度につき, その全体的な関連を考究する。 (5, 6) 患者－医療従事者関係をめぐる法的概念につき, 一定の考究を得る。 (7, 8) 医療事故訴訟を構成する基本的法概念につき, 一定の考究を得る。 (9, 10) 生殖医療, 患者の意思に反する治療, 尊厳死, 脳死, 臓器移植など, 医事法上の論争点につき, 主体的な関心を抱き, かつ, 一定の考究を得る。 (11, 12) 広く医事法上の論争点につき, 自分の考えを法理論的にまとめる。 (13, 14) 「信頼に値する医療」に向けた法的思考方法につき, 一定の考究を得る。 (15) まとめ 		
授 業 の す す め 方	講義形式を併用しながらも, 基本的には演習の形式で進める。		
教 科 書 及 び 参 考 書	最新の文献等につき, 適宜, 指示申し上げる。		
OFFICE HOUR	授業時間に続く一時間程をもって, これに充てる。		
試 験 ・ 成 績 評 価	不断の学習・研究を重視する観点から, 授業時の発言等 50 点, 最終報告 50 点として, 成績評価申し上げる。		

授業科目群名	選択専門科目群		
授業科目名	疾病管理学		
開講学期	非開講	単位数	2
担当教員			
授業の概要	<p>I. 一般学習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 疾病管理の概念を理解する. 2) 疾病管理を実践する能力を身につける. <p>II. 個別学習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 疾病管理の歴史的背景について述べる. 2) 疾病管理の目的を説明する. 3) 患者指導の方法を習得する. 4) 日本における疾病管理システムについて述べる. 5) 疾病管理を行う上での問題点を述べる. 6) 疾病管理プログラムを作成する. 		
授業のすすめ方	講義を行いながら, 適宜, 質疑・討論を行い, 理解を深める形態をとる.		
教科書及び参考書	講義の資料を掲示する.		
OFFICE HOUR			
試験・成績評価	積極的な授業参加:40% 試験:60%		

授業科目群名	選択専門科目群		
授業科目名	医療分析学		
開講学期	1年次・後期	単位数	2
担当教員	福田 治久		
授業の概要	<p>I 一般学習目標</p> <p>本講義では、医療ビッグデータ時代に勝ち残るために、我が国における最新の医療・介護・保健データベースの基礎的な背景・知識を学ぶとともに、実際の医療レセプトデータ・介護レセプトデータ・健診データを例に、統計解析ソフト R/RStudio を用いてデータ加工と統計解析を実施可能な技術を習得することを目的とする。</p> <p>II 個別行動目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療・介護・保健分野で用いられる代表的なビッグデータについて説明できる。 ・統計解析ソフト R/RStudio の基本的な操作をすることができる。 ・統計解析ソフト R/RStudio を用いて基本的なデータの取扱いができる。 ・代表的な統計学的手法を適切に使用することができる。 <p>III 授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療・介護・保健データベース概論(1) 2. 医療・介護・保健データベース概論(2) 3. レセプトデータを用いた研究デザイン(1) 4. レセプトデータを用いた研究デザイン(2) 5. R/RStudio の演習(1) 6. R/RStudio の演習(2) 7. R/RStudio の演習(3) 8. R/RStudio の演習(4) 9. R/RStudio を用いた介護レセプトデータ演習(1) 10. R/RStudio を用いた介護レセプトデータ演習(2) 11. R/RStudio を用いた健診データ演習(1) 12. R/RStudio を用いた健診データ演習(2) 13. R/RStudio を用いた医療レセプトデータ演習(1) 14. R/RStudio を用いた医療レセプトデータ演習(2) 15. R/RStudio を用いた統計解析 		
授業のすすめ方	講義及び演習形式とする。		
教科書及び参考書	講義及び演習の際に、資料を適宜配布する。		
OFFICE HOUR	事前にアポイントメントをとること。		
試験・成績評価	・課題レポート:100点		

授 業 科 目 群 名	選択専門科目群		
授 業 科 目 名	病院会計学		
開 講 学 期	1年次・後期【対面授業(土日集中講義)】	単位数	2
担 当 教 員	重見 亘彦		
授 業 の 概 要	<p>I. 一般学習目標</p> <p>「病医院に倒産はない」という神話は過去のものとなり、我が国の医療機関を取り巻く環境は診療報酬の改定や少子高齢化、医療費の増加抑制、更には新型コロナウイルスの蔓延による医療体制の見直しなど目まぐるしく変化し、一般企業と同様の経営管理体制を保持して行かなければならない状況となっている。</p> <p>当講義は医療機関の経営的特質の部分と一般企業と同様の経営手法を取るべき部分を調和させながら、病医院が行うべき経営を会計学の視点から講義する。</p> <p>II. 個別行動目標</p> <p>当講義では、医療法人または個人の医院等開設主体がいずれの場合においても、医療機関として共通する管理業務の重要なテーマを解説するものであり、ひいては当講義を受講することにより、携わる実務者にとっては直面の課題となる実務の解説、医療機関の中心となる医師においては現場の実務の粗方の理解もさることながら、当該医療機関の経営理念・経営方針の必要性を通じて医療機関としての組織の成長発展のヒントを供与することを目標とする。</p> <p>III. 講義内容</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 病院会計 introduction 当講義の目標と病医院の経営総論 ② 病院会計を学ぶための基礎知識(1) 医療機関の組織の種類 ③ 病院会計を学ぶための基礎知識(2) 健康保険制度 ④ 病院会計を学ぶための基礎知識(3) 簿記・会計学, 単式簿記と複式簿記 ⑤ 病院会計を学ぶための基礎知識(4) 病院会計における規則・ルール ⑥ 医療機関において必要な管理 資金管理等 ⑦ 個別の病院会計論点(1) 診療収益 ⑧ 個別の病院会計論点(2) 医薬品・診療材料等の棚卸資産管理 ⑨ 個別の病院会計論点(3) 固定資産 ⑩ 個別の病院会計論点(4) リース～固定資産とリース各々の長短 ⑪ 個別の病院会計論点(5) 人件費その1(給与及び社会保険) ⑫ 個別の病院会計論点(6) 人件費その2(賞与, 退職給付) ⑬ 個別の病院会計論点(6) 経費その1 ⑭ 個別の病院会計論点(7) 税金 ⑮ 当講義の総括・おさらい <p>(集中講義の場合, 1日目:①～⑦ 2日目:⑧～⑮)</p>		

授業のすすめ方	テキスト及び講師作成のレジユメに沿って講義する。
教科書及び参考書	指定教科書なし
OFFICE HOUR	水曜日
試験・成績評価	積極的な授業参加姿勢 10%, 試験 90%

授 業 科 目 群 名	選択専門科目群		
授 業 科 目 名	社会保険労務論		
開 講 学 期	1年次・前期【対面授業(土日集中講義)】	単位数	2
担 当 教 員	鴨打 正浩(世話人)ほか		
授 業 の 概 要	<p><講義の目的></p> <p>医療機関も含め企業経営の現場における昨今の人事・労務に関する諸問題, 経営ニーズ, 対応策について, 関係諸法令, 行政動向, 企業事例を通じて理解する.</p> <p><講義の概要></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 人事・労務を取り巻く経営環境の変化 ② 解決したい企業が抱える人事労務リスク ③ 人事戦略・企画(人事ポリシー・採用・育成・配置・代謝・エンゲージメント)の基礎 ④ 人材採用(マーケット・採用手法・母集団形成・求める人物像・面接・内定フォロー)の基礎 ⑤ 人事制度管理(データ分析の活用・制度設計・運用の浸透定着・シニア活用)の基礎 ⑥ 人材育成に関する企業課題と研修企画・研修手法の活用 ⑦ 労働時間の管理方法と企業の対応策 ⑧ 変形労働時間時間制, 多様な働き方と活用事例 ⑨ 「過重労働問題」と関係法令, 労働行政の動き ⑩ 「同一労働同一賃金」「社会保険の適用拡大」の内容と影響 ⑪ 就業規則と労使協定の対応 ⑫ ハラスメント問題の対応 ⑬ 社会保険・労働保険制度と実務対応 ⑭ 不利益変更・退職・解雇の対応 ⑮ 実務でよくある問題点と対処方法 		
授 業 の す す め 方	講義を中心として, 適宜, 質疑・討論を行い, 理解を深める.		
教 科 書 及 び 参 考 書	必要な講義資料を配布する.		
OFFICE HOUR	講義期間中は随時質問等に応じる.		
試 験 ・ 成 績 評 価	質疑・討論などの受講態度(50%) + 課題提出(50%)		

授業科目群名	選択専門科目群		
授業科目名	データサイエンス概論		
開講学期	1年次・後期	単位数	2
担当教員	鴨打 正浩(世話人), 松本 晃太郎		
授業の概要	<p>I. 一般学習目標</p> <p>医療分野で行われているデータ解析について全体像を掴むとともに, 基本的な知識を習得する.</p> <p>II. 個別学習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療分野で用いられている主な解析手法について概要を説明できる. 2. 医療分野の研究で用いられている解析手法について解釈できる. <p>III. 具体的講義内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1/2) 医療分野におけるデータサイエンスの意義/R 入門 3/4) 医療データ解析で用いられるデータ/解析を行う上での留意点 5/6) 統計学的学習の基礎/実習 7/8) 機械学習の基礎/実習 9/10) 因果推論の基礎/実習 11/12) ディープラーニングの基礎/様々なディープラーニング手法の紹介 13/14) 応用データ解析 I / II 15) 試験 		
授業のすすめ方	講義を中心に進めるが, 適宜具体的な解析の実習も行う. 統計ソフト R を用いるため, 個人で利用できる端末を各自用意しておくことが望ましい. 具体的は統計ソフトのインストール方法等は講義で説明するため, 事前に準備しておく必要は無い.		
教科書及び参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ローゼンバウム 統計的因果推論入門: 観察研究とランダム化実験, Paul R. Rosenbaum 著, 阿部貴行/岩崎学 訳, 共立出版, 東京, 2021 ・入門 統計的因果推論, Judea Pearl/ Madelyn Glymour/ Nicholas P. Jewell 著, 落海浩 訳, 朝倉書店, 東京, 2019 ・R による統計学的学習入門, Gareth James/Daniela Witten/Trevor Hastie/Robert Tibshirani 著, 落海浩/首藤信通 訳, 朝倉書店, 東京, 2018 ・ゼロから作る Deep Learning —Python で学ぶディープラーニングの理論と実装, 斎藤康毅 著, オライリー・ジャパン, 東京, 2016 		
OFFICE HOUR	常時. Eメール等による事前のアポイントメントを取ることが望ましい.		
試験・成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な授業参加: 40% ・試験: 60% 		

授業科目群名	選択専門科目群																																																		
授業科目名	人体構造・機能概論																																																		
開講学期	1年次・前期【対面授業(平日講義)】	単位数	1																																																
担当教員	目野 主税, 三浦 岳, 神野 尚三																																																		
授業の概要	<p>I 一般学習目標 医学研究に携わっていく上で、人体の基本的構造と機能についての正しい知識が必要である。正常人のからだを構成している器官の構造を理解し、さらに人体発生のあらましについて理解することを目標とする。</p> <p>II 個別行動目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の形態的構成の階層性(細胞, 組織, 器官, 器官系)について説明できる。 2. 主な筋の名称と機能, 主な骨の名称と関節の構造を説明できる。 3. 心臓の構造とポンプ機能との関連, 泌尿生殖系, 内分泌系を構成する器官について説明できる。 4. 消化器系, 呼吸器系を構成する器官について説明できる。 5. 中枢神経系の構成, 主な末梢神経について説明できる。 6. 人体発生のあらましについて説明できる。 7. マウス胚の研究手法, 顕微鏡下でマウス胚標本の構造を説明できる。 <p>講義内容</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>月日</th> <th>時限</th> <th>授業内容</th> <th>担当教員</th> <th>講義室</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>4/10 (金)</td> <td>3</td> <td>1. ガイダンス・組織学総論</td> <td>目野 主税 教授 発生再生医学 Tel. 6259 meno.chikara.727@</td> <td>総合研究棟2階 203 セミナー室</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4/17 (金)</td> <td>3</td> <td>2. 骨格系・筋系</td> <td>三浦 岳 教授 系統解剖学 Tel. 6048 miura.takashi.869@</td> <td>基礎研究A棟 1階第一実習室 (旧組織学自習室)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>4/24 (金)</td> <td>3</td> <td>3. 脈管系・泌尿生殖系・内分泌系</td> <td>三浦 岳 教授 系統解剖学 Tel. 6048 miura.takashi.869@</td> <td>基礎研究A棟 地下1階 人体病理ミュージアム</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>5/1 (金)</td> <td>3</td> <td>4. 人体発生学入門①</td> <td>目野 主税 教授 発生再生医学 Tel. 6259 meno.chikara.727@</td> <td>総合研究棟2階 203 セミナー室</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>5/15 (金)</td> <td>3</td> <td>5. 消化器系・呼吸器系</td> <td>神野 尚三 教授 神経解剖学 Tel. 6051 jinno.shozo.170@</td> <td>総合研究棟2階 203 セミナー室</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>5/22 (金)</td> <td>3</td> <td>6. 神経系</td> <td>神野 尚三 教授 神経解剖学 Tel. 6051 jinno.shozo.170@</td> <td>総合研究棟2階 203 セミナー室</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>5/29 (金)</td> <td>3</td> <td>7. 人体発生学入門②</td> <td>目野 主税 教授 発生再生医学 Tel. 6259 meno.chikara.727@</td> <td>総合研究棟2階 203 セミナー室</td> </tr> </tbody> </table>			回	月日	時限	授業内容	担当教員	講義室	1	4/10 (金)	3	1. ガイダンス・組織学総論	目野 主税 教授 発生再生医学 Tel. 6259 meno.chikara.727@	総合研究棟2階 203 セミナー室	2	4/17 (金)	3	2. 骨格系・筋系	三浦 岳 教授 系統解剖学 Tel. 6048 miura.takashi.869@	基礎研究A棟 1階第一実習室 (旧組織学自習室)	3	4/24 (金)	3	3. 脈管系・泌尿生殖系・内分泌系	三浦 岳 教授 系統解剖学 Tel. 6048 miura.takashi.869@	基礎研究A棟 地下1階 人体病理ミュージアム	4	5/1 (金)	3	4. 人体発生学入門①	目野 主税 教授 発生再生医学 Tel. 6259 meno.chikara.727@	総合研究棟2階 203 セミナー室	5	5/15 (金)	3	5. 消化器系・呼吸器系	神野 尚三 教授 神経解剖学 Tel. 6051 jinno.shozo.170@	総合研究棟2階 203 セミナー室	6	5/22 (金)	3	6. 神経系	神野 尚三 教授 神経解剖学 Tel. 6051 jinno.shozo.170@	総合研究棟2階 203 セミナー室	7	5/29 (金)	3	7. 人体発生学入門②	目野 主税 教授 発生再生医学 Tel. 6259 meno.chikara.727@	総合研究棟2階 203 セミナー室
回	月日	時限	授業内容	担当教員	講義室																																														
1	4/10 (金)	3	1. ガイダンス・組織学総論	目野 主税 教授 発生再生医学 Tel. 6259 meno.chikara.727@	総合研究棟2階 203 セミナー室																																														
2	4/17 (金)	3	2. 骨格系・筋系	三浦 岳 教授 系統解剖学 Tel. 6048 miura.takashi.869@	基礎研究A棟 1階第一実習室 (旧組織学自習室)																																														
3	4/24 (金)	3	3. 脈管系・泌尿生殖系・内分泌系	三浦 岳 教授 系統解剖学 Tel. 6048 miura.takashi.869@	基礎研究A棟 地下1階 人体病理ミュージアム																																														
4	5/1 (金)	3	4. 人体発生学入門①	目野 主税 教授 発生再生医学 Tel. 6259 meno.chikara.727@	総合研究棟2階 203 セミナー室																																														
5	5/15 (金)	3	5. 消化器系・呼吸器系	神野 尚三 教授 神経解剖学 Tel. 6051 jinno.shozo.170@	総合研究棟2階 203 セミナー室																																														
6	5/22 (金)	3	6. 神経系	神野 尚三 教授 神経解剖学 Tel. 6051 jinno.shozo.170@	総合研究棟2階 203 セミナー室																																														
7	5/29 (金)	3	7. 人体発生学入門②	目野 主税 教授 発生再生医学 Tel. 6259 meno.chikara.727@	総合研究棟2階 203 セミナー室																																														
授業のすすめ方	講義を中心として、適宜実習などを行う。 2回目以降の開講形態(対面・オンライン)については、Moodleにてご確認ください。																																																		
教科書及び参考書	必要に応じて適宜配布する。																																																		
OFFICE HOUR	メールで受け付ける。メールアドレスは末尾に m.kyushu-u.ac.jp が付きます。																																																		
試験・成績評価	講義ごとに担当教員がレポート(100%)で評価し、それらを全て総合して最終評価とする。																																																		

授業科目群名	選択専門科目群																																																		
授業科目名	病因論																																																		
開講学期	1年次・前期【対面授業(平日講義)】	単位数	1																																																
担当教員	小田 義直																																																		
授業の概要	<p>I 一般学習目標 主要な病気, 病的状態を理解するために, その原因, 発病機構, 転機について学習し, 臨床病学を正しく把握する為に必要な病理学的知識を習得する.</p> <p>II 個別行動目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細胞の正常構造とその病的変化を説明できる. 蛋白・脂質・糖代謝異常に大別して理解する. 萎縮・変性・壊死・アポトーシスを理解する. ・栄養素の欠乏・過剰に伴う病変を説明できる. 外傷・熱傷・凍傷などの病変の基本を理解する. 放射線障害の病理を学ぶ. ・創傷治癒の機序と経過を理解する. 創傷治癒・免疫・炎症の関係を理解する. 形成異常の定義と概念及び原因と分類を理解する. ・腫瘍の定義と分類について学習する. 上皮性腫瘍の分類と組織像を学習する. 軟部腫瘍の分類と組織像を学習する. ・腫瘍の基本形態(肉眼像・組織像)を学ぶ. 腫瘍の発生と発育及び宿主との関係を理解する. ・人体解剖とその諸臓器の病理組織像を学習する. 病理学における生命倫理の重要性を認識する. ・日常診療における病理医の役割を理解する. 細胞診及び免疫染色の組織像を学習する. <p>講義内容</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>月日</th> <th>時限</th> <th>授業内容</th> <th>担当教員</th> <th>講義室</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>4/13 (月)</td> <td>1</td> <td>1. 物質代謝異常と退行性病変</td> <td>小田 義直 教授 形態機能病理学 TEL: (092) 642-6061 FAX: (092) 642-5968</td> <td>総合研究棟2階 205セミナー室</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4/20 (月)</td> <td>1</td> <td>2. 栄養障害と物理化学障害</td> <td>岩崎 健 准教授 病院病理部</td> <td>総合研究棟2階 205セミナー室</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>4/27 (月)</td> <td>1</td> <td>3. 修復機転・形成異常</td> <td>毛利 太郎 助教 形態機能病理学</td> <td>総合研究棟2階 205セミナー室</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>5/11 (月)</td> <td>1</td> <td>4. 腫瘍総論</td> <td>山本 猛雄 助教 形態機能病理学</td> <td>総合研究棟2階 205セミナー室</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>5/18 (月)</td> <td>1</td> <td>5. 腫瘍の分類</td> <td>小田 義直 教授 形態機能病理学</td> <td>総合研究棟2階 205セミナー室</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>5/25 (月)</td> <td>1</td> <td>6. 外科病理学(1)</td> <td>清澤 大裕 講師 病院病理部</td> <td>総合研究棟2階 205セミナー室</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>6/1 (月)</td> <td>1</td> <td>7. 外科病理学(2)</td> <td>橋迫 美貴子 助教 病院病理部</td> <td>総合研究棟2階 205セミナー室</td> </tr> </tbody> </table>			回	月日	時限	授業内容	担当教員	講義室	1	4/13 (月)	1	1. 物質代謝異常と退行性病変	小田 義直 教授 形態機能病理学 TEL: (092) 642-6061 FAX: (092) 642-5968	総合研究棟2階 205セミナー室	2	4/20 (月)	1	2. 栄養障害と物理化学障害	岩崎 健 准教授 病院病理部	総合研究棟2階 205セミナー室	3	4/27 (月)	1	3. 修復機転・形成異常	毛利 太郎 助教 形態機能病理学	総合研究棟2階 205セミナー室	4	5/11 (月)	1	4. 腫瘍総論	山本 猛雄 助教 形態機能病理学	総合研究棟2階 205セミナー室	5	5/18 (月)	1	5. 腫瘍の分類	小田 義直 教授 形態機能病理学	総合研究棟2階 205セミナー室	6	5/25 (月)	1	6. 外科病理学(1)	清澤 大裕 講師 病院病理部	総合研究棟2階 205セミナー室	7	6/1 (月)	1	7. 外科病理学(2)	橋迫 美貴子 助教 病院病理部	総合研究棟2階 205セミナー室
回	月日	時限	授業内容	担当教員	講義室																																														
1	4/13 (月)	1	1. 物質代謝異常と退行性病変	小田 義直 教授 形態機能病理学 TEL: (092) 642-6061 FAX: (092) 642-5968	総合研究棟2階 205セミナー室																																														
2	4/20 (月)	1	2. 栄養障害と物理化学障害	岩崎 健 准教授 病院病理部	総合研究棟2階 205セミナー室																																														
3	4/27 (月)	1	3. 修復機転・形成異常	毛利 太郎 助教 形態機能病理学	総合研究棟2階 205セミナー室																																														
4	5/11 (月)	1	4. 腫瘍総論	山本 猛雄 助教 形態機能病理学	総合研究棟2階 205セミナー室																																														
5	5/18 (月)	1	5. 腫瘍の分類	小田 義直 教授 形態機能病理学	総合研究棟2階 205セミナー室																																														
6	5/25 (月)	1	6. 外科病理学(1)	清澤 大裕 講師 病院病理部	総合研究棟2階 205セミナー室																																														
7	6/1 (月)	1	7. 外科病理学(2)	橋迫 美貴子 助教 病院病理部	総合研究棟2階 205セミナー室																																														
授業のすすめ方	講義を中心として行う.																																																		
教科書及び参考書	授業によっては参考プリントを配布する.																																																		
OFFICE HOUR	適宜質問, 相談に応じる.																																																		
試験・成績評価	3回以上の欠席は履修しなかったものとみなす. 授業中の態度や質疑応答(100%)をもって評価する.																																																		

授業科目群名	選択専門科目群		
授業科目名	がん医療概論		
開講学期	1年次・前期・後期【対面授業(平日講義)】	単位数	1
担当教員	馬場 英司		
授業の概要	<p>I. 一般学習目標</p> <p>がんの特性を病理学的観点, 治療学的観点から学習し, 患者の病態理解に役立つ知識の獲得を目的とする.</p> <p>がん医療におけるチーム医療の重要性を理解し, 最新のがん薬物治療開発について触れることを目的とする.</p> <p>II. 個別行動目標</p> <p>1. 定義・病態</p> <p>① 腫瘍の定義と病態を説明できる.</p> <p>② 腫瘍の症候を説明できる.</p> <p>③ 腫瘍のグレード, ステージを概説できる.</p> <p>2. 診断</p> <p>① 腫瘍の検査所見を説明できる.</p> <p>② 腫瘍の画像所見や診断を説明できる.</p> <p>③ 腫瘍の病理所見や診断を説明できる.</p> <p>3. 治療</p> <p>① 腫瘍の集学的治療を概説できる.</p> <p>② 腫瘍の手術療法を概説できる.</p> <p>③ 腫瘍の放射線療法を概説できる.</p> <p>④ 腫瘍の薬物療法(殺細胞性抗癌薬, 分子標的薬, 免疫チェックポイント阻害薬)を概説できる.</p> <p>⑤ 腫瘍の生物学的療法を概説できる.</p> <p>⑥ 腫瘍における支持療法を概説できる.</p> <p>4. 診療の基本的事項</p> <p>① 腫瘍の診療におけるチーム医療を概説できる.</p> <p>② 腫瘍の診療における生命倫理(バイオエシックス)を概説できる.</p> <p>③ 腫瘍性疾患をもつ患者の置かれている状況を深く認識できる.</p> <p>④ 腫瘍における緩和ケアを概説できる.</p> <p>III. 講義内容</p> <p>1. がんの診断と治療の考え方</p> <p>① がんの定義について知る.</p> <p>② がんの診断の考え方を理解する.</p> <p>③ がんの治療の考え方を理解する.</p> <p>2. がん薬物療法: 殺細胞薬, 分子標的薬</p> <p>① がん薬物療法の役割・臨床的位置付けについて知る.</p> <p>② 抗がん剤の作用機序に基づく分類を理解する.</p> <p>③ 薬物動態, 薬力学について理解する.</p> <p>④ ドラッグデリバリーシステムについて知る.</p>		

	<p>3. がんの物学:病理学, 分子生物学</p> <ul style="list-style-type: none"> ① がんの病態を知る. ② がん遺伝子, がん抑制遺伝子について理解する. ③ シグナル伝達, 細胞周期, 浸潤と転移, 血管新生などがんにおける病理学的異常について理解する. ④ がんにおける分子生物学的異常が治療標的となる可能性を知る. <p>4. がんの臨床試験・がん医療の倫理</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 臨床試験の目的を理解する. ② 臨床試験の計画方法について知る. ③ 診療試験によって得られた結果を理解する. ④ 臨床試験の実際, 実例について知る. <p>5. がん免疫療法の現況</p> <ul style="list-style-type: none"> ① がん微小環境とがん免疫について知る. ② がん細胞の免疫回避システムについて理解する. ③ 免疫チェックポイント阻害療法について理解する. ④ 最新のがん免疫療法開発について知る. <p>6. 消化器がんの薬物療法</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 消化器がんの薬物療法の実際を知る. ② 消化器がんのがん免疫療法と化学療法との併用療法について知る. ③ 最新の消化器がん治療開発を知る. <p>7. 肺がんの薬物療法</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 肺がんの薬物療法を知る. ② 肺がんのがん免疫療法と化学療法との併用療法について知る. ③ 最新の肺がん治療開発を知る. <p>8. 最新のがんゲノム医療</p> <ul style="list-style-type: none"> ① がんゲノム医療の目的を理解する. ② がんゲノム医療の実際について知る. ③ ゲノムシーケンスで得られた結果の臨床活用について知る.
授業のすすめ方	<p>講義は一方向性の知識伝達型の教授・学習法. 対面授業および遠隔授業の形で実施する.</p>
教科書及び参考書	<p>スライド資料, 「新臨床腫瘍学」(南江堂)</p>
OFFICE HOUR	<p>随時</p>
試験・成績評価	<p>課題は 2-3 のテーマを講義内で提示し, その一つについて全講義終了後 3 週間後までに提出し評価する. (A4 用紙 1-2 頁程度, 日本語)</p>

4. 医療経営・管理学専攻 履修モデル

			医療系					非医療系				
			医療 機関 従事者	行政・ 保険者 関係者	教育 関係者	コンサル 関係者	情報系 関係者	医療 機関 従事者	行政・ 保険者 関係者	教育 関係者	コンサル 関係者	情報系 関係者
科目群	科目名／合計単位数	単位数	42	42	42	42	42	42	42	42	42	42
医療学 基礎 科目群	医学概論	1						○	○	○	○	○
	分子医学概論	1						○	○	○	○	○
	内科学	1						○	○	○	○	○
	外科学	1						○	○	○	○	○
共通 基礎 科目群	医療マーケティング論(非開講)	2										
	医療の質概論	2	○	○	○	○		○	○	○	○	
	医療安全管理論	2	○	○	○			○	○	○		
	医療オーガナイズ論(非開講)	2										
	医療疫学	2	○	○			○	○	○			○
	社会医学	1	○	○				○	○			
	医療行政学	2			○	○	○			○	○	○
	医療保障法	2	○	○		○	○	○	○		○	○
	衛生・公衆衛生学	2			○	○	○			○	○	○
	医療情報学	2	○	○	○	○	○			○	○	○
必修 専門 科目群	医療政策学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	医療財政学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	医療経営学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	医療管理学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	健康行動科学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	疫学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	医学統計学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	環境保健学	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	演習Ⅰ	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	演習Ⅱ	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
選択 専門 科目群	ケアコミュニケーション論	2			○	○	○	○		○		
	医療経済学	2	○	○	○				○	○	○	
	医療訴訟論	2	○	○	○	○		○	○	○		
	疾病管理学(非開講)	2										
	医療分析学	2	○	○		○	○	○	○		○	○
	病院会計学	2	○		○	○	○					○
	社会保険労務論	2		○		○	○		○			
	データサイエンス概論	2	○	○	○		○	○			○	○
	人体構造・機能概論	1		○	○				○	○		
	病因論	1			○	○	○			○	○	○
がん医療概論	1	○			○	○	○	○		○	○	

5. 令和8年度授業時間割

【前期】

曜日	時限	1時限目 8:40～10:10	2時限目 10:30～12:00	3時限目 13:00～14:30	4時限目 14:50～16:20	5時限目 16:40～18:10	6時限目 18:30～20:00
月	1年	病因論 (選) 総・205 セミナー室		外科学 (医) オンライン			
火	1年	医療財政学 (必) オンライン		健康行動科学 (必) オンライン		疫学 (必) オンライン	
		医療管理学 (必) オンライン		医学統計学 (必) オンライン			
	2年						演習 I (必) (各教員)
水							
木	1年					医学概論 (医) オンライン	内科学 (医) オンライン
金	1年		分子医学概論 (医) オンライン	人体構造・機能 概論 (選) 総・203 セミナー室			

【集中講義】

授業科目名	日程	講義室	備考
医療経済学 (選)	集中講義	基礎 B・講義室	開講日時は別途通知
社会保険労務論 (選)	集中講義	基礎 B・講義室	開講日時は別途通知
医療行政学 (共)	集中講義	基礎 B・講義室	開講日時は別途通知
医療疫学 (共)	集中講義	基礎 B・講義室	開講日時は別途通知

[授業科目群] 医:医療学基礎科目群, 共:共通基礎科目群, 必:必修専門科目群, 選:選択専門科目群

[講義場所] 総:総合研究棟, 基礎 B:医学部基礎研究 B 棟, 基礎 A:医学部基礎研究 A 棟

※時間割, 授業形態は変更される場合があります。

※配当年次は当該科目履修可能な学年であり, 当該学年以上の学年が履修可能です。

※各授業科目の開講日については, 別途配布の「令和8年度前期授業日程」で確認してください。

【 後期 】

時限 曜日	1時限目 8:40～10:10	2時限目 10:30～12:00	3時限目 13:00～14:30	4時限目 14:50～16:20	5時限目 16:40～18:10	6時限目 18:30～20:00
月						
火	1年	医療政策学 (必) オンライン	医療経営学 (必) オンライン	医療保障法 (共) オンライン		
		衛生・公衆衛生学 (共) オンライン	環境保健学 (必) オンライン			
	2年					演習Ⅱ (必) (各教員)
水						
木	1年	医療の質概論 (共) オンライン	医療分析学 (選) オンライン			医療情報学 (共) オンライン
			データサイエンス概論 (選) オンライン			
金						

【 集中講義 】

授業科目名	日程	講義室	備考
医療安全管理論 (共)	集中講義	基礎 B・講義室	開講日時は別途通知
ケアコミュニケーション論 (選)	集中講義	基礎 B・講義室	開講日時は別途通知
病院会計学 (選)	集中講義	基礎 B・講義室	開講日時は別途通知
医療訴訟論 (選)	集中講義	基礎 B・講義室	開講日時は別途通知
がん医療概論 (選)	変則日程	臨床大講堂	開講日時は別途通知
社会医学 (共)	変則日程		開講日時は別途通知

[授業科目群] 医:医療学基礎科目群, 共:共通基礎科目群, 必:必修専門科目群, 選:選択専門科目群

[講義場所] 総:総合研究棟, 基礎 B:医学部基礎研究 B 棟, 基礎 A:医学部基礎研究 A 棟

※時間割は変更される場合があります。

※配当年次は当該科目履修可能な学年であり, 当該学年以上の学年が履修可能です。

※「がん医療概論」「社会科学」の授業は変則日程となります。

※各授業科目の開講日については, 別途配布の「令和8年度後期授業日程」で確認してください。

6. 医学系学府医療経営・管理学専攻 最終成果物執筆要項

1. 最終成果物は、「医学雑誌掲載のための学術研究の実施，報告，編集および出版に関する勧告，2018年12月改訂」（ICMJE統一投稿規定，Recommendations for the Conduct, Reporting, Editing, and Publication of Scholarly Work in Medical Journals [<http://www.icmje.org/>]) に準じて記載する。
2. 最終成果物の構成は，タイトルページ，和文抄録，原稿（本文，図表，引用文献），英文抄録とする。
3. 最終成果物は，ワープロソフト（Microsoft Office Word推奨）を用い，指定されたフォーマット，書式で記載する。
4. 余白は上下左右2 cmとする。
5. 文書レイアウトは，A4判40文字×36行（1,440字），横書きとする。フォントサイズは10.5，日本語フォントはMS明朝，英語フォントはTimes New Romanとする。
6. 原稿（本文，図表，引用文献）は原則10枚程度（最大15枚以内）とする。
7. タイトルページには，研究課題名，学生番号，氏名を記載する。
8. 抄録は構造化抄録とする。
 - ① 研究課題名と氏名を記載する。
 - ② 和文は【背景と目的】，【方法】，【結果】，【考察】，英文は【Background and Purpose】，【Methods】，【Results】，【Conclusions】を記載する。
 - ③ 抄録の字数は，和文は1,000字以内，英文抄録は450語以内とし，それぞれ1枚におさめる。
 - ④ 抄録の最後にキーワード（Key words）を3～5語記載する。
9. 本文は，和文または英文で記載する。はじめに／Introduction，方法／Methods，結果／Results，考察／Discussion，結論／Conclusions，引用文献／Referencesに分けて記載する。
10. 図表の数は原則として10個以内とする。図表にはタイトルをつけ，本文中の該当箇所へ挿入しても，本文最後にまとめてもよい。
11. 頻出語を略語にする際には，初出時にフルスペルを併記する。
12. 引用文献は下記の規程に準じる。
 - ① 本文に引用されているもののみを挙げる。
 - ② 引用順に引用番号をつけ，本文中の引用箇所に肩文字をつける。複数の文献を引用する際，2つの文献を引用する場合には「，」を用い，3つ以上の文献を引用するときには「-」を用いる。
(記載例) 過去に報告されている¹⁾。知られている^{2,3)}。他の研究を参照した⁴⁻⁶⁾。
 - ③ 著者は最大3名までは全員，4名以上のときには3名のみ記載し4番日以降は「他」，「et al.」とする。
 - ④ 学術誌は，著者名，表題，雑誌名，年，巻，頁の順に記述する。雑誌名は，NLM Title Abbreviationの略称を用いる。教科書は，著者，表題，編集者，書名，版，発行地，出版社，出版年，掲載頁の順に記述する。ウェブサイト記事は，著者名，ウェブサイトの題名，ウェブサイトの名称，更新日付，入手先，入手日付を記述する。

(記載例)

<学術論文>

1. 小田太史, 福田治久. 病床機能報告制度を用いた日常生活動作とリハビリテーション提供時間の関係. 日本公衆衛生雑誌. 2021; 68: 3-11
2. Maeda T, Babazono A, Nishi T, et al. Effects of gastrostomy fee schedule revision on artificial nutrition routes among older people with dementia in Japan: A time series observational study. *Geriatr Gerontol Int*. 2018; 18: 1405-1409.

<書籍>

3. Meltzer PS, Kallioniemi A, Trent JM. Chromosome alterations in human solid tumors. In: Vogelstein B, Kinzler KW, eds. *The genetic basis of human cancer*. New York: McGraw-Hill; 2002. p. 93-113.

<研究報告>

4. 瀧山嘉久, 辻省次, 佐々木秀直ら. 痙性対麻痺全国共同研究の提案—JASPAC (Japan Spastic Paraplegia Research Consortium) —. 厚生労働省難病性疾患克服研究事業, 運動失調に関する調査及び病態機序に関する研究班, 平成17年度研究報告書. 2006. p. 115-118.

<ウェブサイト>

5. 難病情報センター. アレルギー性肉芽腫性血管炎. 東京: 厚生労働省; 2010-02-05. <http://www.nanbyou.or.jp/sikkan/005.htm>. (cited 2011-01-11).
6. 中央教育審議会. 教育振興基本計画について-「教育立国」の実現に向けて-(答申). 東京: 文部科学省; 2008-04-18. http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/08042205.htm, (cited 2008-08-13).

以上の執筆要項は論文形式で提出する際の原則であり, 各自の研究内容に応じて演習指導教員とよく相談の上で最終成果物を作成すること。

(2020年4月1日改訂)

7. 医療経営・管理学専攻成績評価規則

制定 平成13年4月1日

改正 平成25年2月23日

改正 令和3年3月10日

第1条 (成績の区分)

学生の成績はS, A, B, C, Fの5段階とし, C以上を合格とする。ただし, 特別の理由があるときは合格・不合格の2段階評価とすることができる。

第2条 (成績区分の標準)

S, A, B, C, Fの基準は, 下記の通りとする。

S 90点以上, A 80点以上, B 70点以上, C 60点以上, F 不合格(60点未満)

第3条 (成績評価)

成績は, 筆記試験及び平常点によって評価する。ただし, 実習科目並びに相当の理由がある場合は, レポート等の提出によって筆記試験に代えることができる。

- 2 各教員は, 成績評価に際してどのような要素がどの程度考慮されるかにつき, 学生が履修する前に公表しておくものとする。
- 3 教員による採点は, 原則として素点によって行う。ただし, 学生には素点ではなく, 4段階評価で通知する。

第4条 (成績評価に対する調査請求)

学生は, 本専攻の授業科目について受けた成績評価につき不服がある場合には, 調査請求を行うことができる。

第5条 (調査請求の手続)

学生は, 前条の調査請求を行う場合には, 調査を請求する授業科目名, 担当教員名, 請求する調査の内容, 及びその理由を記載した調査請求書を, 大学院係に提出しなければならない。

- 2 前項の理由は, 公表された成績評価方法を踏まえて, これを具体的に述べなければならない
- 3 第1項の調査請求書は, 当該成績が発表された日から1週間以内に提出しなければならない。ただし, 当該期間内に提出できなかったことにつき正当な理由がある場合はこの限りでない。

第6条 (調査請求に対する回答)

前条第1項の調査請求書が提出された場合, 当該成績評価を行った教員は速やかに調査を行ったのち, 調査請求書が提出された日から10日以内に, 調査結果を説明した回答書(以下「調査結果回答書」という。)を大学院係に提出するものとする。

附 則

この内規は, 平成13年4月1日から施行する。

附 則

この内規は, 平成25年3月1日から施行する。

附 則

この内規は, 令和3年4月1日から施行する。

8. 九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻 インターンシップ・実習研修に関する実施要領

(目的)

第1条 この要領を示し、九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻（以下「本専攻」という。）における授業時以外のインターンシップ・実習研修（以下「インターンシップ研修」という。）について有益かつスムーズな運営を行う。

(インターンシップの定義)

第2条 インターンシップ研修とは、本専攻の大学院生の専門教育をより充実させるために、学外諸施設のインターンシップ制度を利用して、学外諸施設において業務に従事することをいう。

2 インターンシップ・研修の実施に係わる経費は、大学院生が負担するものとする。

(単位認定)

第3条 インターンシップ研修は、単位として認定しないものとする。

(参加)

第4条 インターンシップ研修は、大学院生の意思において、既存の授業に影響を及ぼさない範囲で参加するものとする。

(届出)

第5条 前条によりインターンシップ研修に参加する大学院生は、事前に専攻長に申し出るものとする。

(許可)

第6条 参加の許可は、医療経営・管理学専攻会議の議を経て、学府長が行う。

(研修中における事故責任等)

第7条 大学院生は、研修参加において、インターンシップ期間中の事故に備えて、学生災害傷害保険及び賠償責任保険に加入しなければならない。

2 大学院生は、研修中の事故に関して、自らの責任において対応することとし、九州大学は一切の責任を負わない。

3 九州大学は、研修生が学外諸施設及び第三者に与えた損害に関して、一切の責任を負わない。

4 大学院生は、研修生が学外諸施設及び第三者に損害を与えたときは、学外諸施設及び当該第三者に対し当該損害を賠償しなければならない。

(機密情報・個人情報等の保持)

第8条 大学院生は、本件インターンシップに関する学外諸施設の機密情報、個人情報について、みだりに第三者に開示したり、漏えい事故を発生させないように十分な注意を払わなければならない。

(事務)

第9条 インターンシップ研修に関する事務は、大学院係が担当する。

(その他)

第10条 この要領に定めるもののほか、インターンシップ研修に関して必要な事項は、別に定める。

附 則

この要領は、平成29年4月1日から施行する。

9. 学生生活のしおり

事務手続等

1. 連絡・受付

1) 事務窓口

医学系学府の皆さんの各種手続等は学務課大学院係で受け付けます。

窓口事務取扱時間は、8時30分～17時15分です。

2) 連絡

皆さんへの連絡は、基本的に学生基本メールで行います。大学院係からのメールを確認するようにしてください。

2. 各種証明書の発行

各種証明書の発行にあたっては、オンラインでの申請が必要になります。在学証明書、JR学生旅客運賃割引証（学割証）及び成績証明書は、基礎研究A棟1階生協食堂入口設置の証明書自動発行機で発行できます。その他、通学定期券購入用の通学証明書等は、窓口で交付できます。

学生定期健康診断を受診した者の健康診断証明書は、自動発行機で発行できます。発行されない場合はキャンパスライフ・健康支援センター病院地区健康相談室に申し込んでください。

<https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/education/procedure/certificate/>



3. 各種届と願（各様式は医学系学府Webサイトからダウンロードできます。）

<https://www.grad.med.kyushu-u.ac.jp/procedure/>



1) 履修届の提出

履修する授業科目については、学期毎に指示された日時までに大学院係あて履修届を提出してください。

2) 現住所変更届

学生及び保護者等（緊急連絡先）の住所変更が生じた場合は、速やかに大学院係へ報告してください。

3) 改姓・保護者等の変更届

変更が生じたら届け出てください。改姓の場合は、改姓を証明するものを提出してください。

4) 休学願

病気、その他やむを得ない事情で2ヶ月以上修学できない場合は、願い出により休学することができます。指導教授とよく相談のうえ所定の様式で（病気の場合は診断書添付）学府長宛に願い出てください。

なお、学期が始まる前（3月31日又は9月30日）までに休学が許可された者の休学期間中の授業料は、原則として免除されます。

休学期間が満了になっても、なお引続いて休学をする必要がある場合は、許可されている期間が終わるまでに、休学の延長を願い出てください。

5) 復学願

休学期間の中途に休学事由が解消し復学しようとする場合、または休学期間満了により復学する時は、復学願を提出してください。病気による休学で休学期間内に全快して復学しようとする場合は、修学に支障がない旨の診断書を添えてください。

6) 退学願

やむを得ない事情のため退学しようとする場合は、指導教授に相談のうえ退学願を学府長あて提出し許可を受けなければなりません。もし、退学願を出さないで、または許可されないまままで通学しなかった場合は、引き続き在学しているものとして取り扱われます。授業料の支払いも必要になりますので特に留意してください。

7) 海外渡航願

海外へ渡航する場合は、指導教員の承諾を得て届け出てください。

4. 学生証

学生証は、常にこれを携帯し、本学教職員等の要求があったときは呈示しなければなりません。

証明書自動発行機を使用する時にも必要です。裏面は図書館利用者票になっています。情報基盤センター教育用システムのユーザIDと登録コードも印刷されていますので、取扱に注意してください。

学生証を紛失・棄損したときは、再交付願に必要事項を記入し、再発行手数料を納付のうえ再交付を受けてください。

修了・退学等で学生の身分に異動があったときは、直ちに医系学部等事務部学務課大学院係へ返納してください。

5. 授業料の納付

授業料は前期分（4～9月）を5月末まで、後期分（10月～3月）を11月末までに本人又は保護者等の指定口座から本学の銀行口座への口座振替により、納入することになっています。

厚生関係

1. 奨学金

1) 日本学生支援機構奨学金

学業成績が優秀で、経済的に困難な学生に貸与されるもので、第一種奨学金と第二種奨学金があります。

募集は入学直後に行いますが、追加があればその都度掲示で通知します。

なお、失職、破産、会社倒産、病気、死亡等又は、火災、風水害等による家計急変のため、緊急に奨学金貸与の必要性が生じた場合には緊急採用もありますので、相談してください。

種類	貸与月額（令和8年度参考）
第一種奨学金（無利息）	5万円，8万8千円から選択
第二種奨学金（有利子）	5万円，8万円，10万円，13万円，15万円から選択

奨学生は、次の点に注意してください。

- 適格認定**：毎年度12月に奨学金継続願を提出しなければなりません。期日までに提出がない場合は、奨学生の資格を失うことになります。
- 異動届**：奨学生が休学・退学等学生の身分に異動があった場合はすみやかに異動届を出してください。
- 返還誓約書**：定められた期限までに必ず提出してください。詳しくは入学後、配付の申請書で確認してください。
- 返還猶予**：奨学金貸与期間満了者は、6ヶ月後から返還義務が生じますが、返還猶予を必要とする場合は、返還期日到来前に「返還の手引き」にしたがって所定の手続きを忘れないでください。

2) その他の奨学金

数は少ないですが地方公共団体、民間等の奨学金がありますので、各種奨学金HPで確認してください。必要な場合は学務部キャリア・奨学支援課に照会してください。

<https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/admission/fees/scholarship/other>

2. 授業料免除

1) 経済的理由により授業料の納入が困難であり、かつ学業優秀と認められる者

2) 主たる家計支持者の死亡、または風水害等の災害を受けたことにより、授業料の納付が困難と認められた者は授業料免除の対象者となります。

授業料免除申請は年2回で、8月（後期分）3月（前期分）にWebによる免除申請となります。掲示によりお知らせしますので、十分注意してください。

詳しくは九州大学Webサイトを確認してください。

(<https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/admission/fees/exempt02>)



3. 健康管理

1) キャンパスライフ・健康支援センター病院地区健康相談室

健康相談，学生相談・カウンセリング，精神保健相談，及び救急処理などの日常業務を行っています。相談・治療に費用は一切かかりません。日常の各相談は，午前9時から午後5時まで受け付けています。休養室もあります。

TEL. 092-642-6889

2) 定期健康診断

毎年4月に定期健康診断が病院地区で実施されます。法律で義務づけられたものです。必ず受診してください。受診者には健康診断証明書が発行されます。

3) 特別定期健康診断

実習・実験等で放射性同位元素を取り扱う学生は，定期的に検診を受け，放射線障害等の予防に努めなければなりません。このため，放射線を取り扱う者は，事前に取り扱主任者へ登録を行う必要があります。医系学部等事務部学術協力課学術総務係が担当しています。

TEL. 092-642-6672

4. 保険制度

1) 学生教育研究災害傷害保険（学研災）

正課中・学校行事中及び課外活動中に災害・障害を被った場合並びに通学中及び大学施設等相互間の移動中の事故に対して，その被害の程度に応じて保険金が支払われる全国規模の保険です。全員加入してください。九州大学生生活協同組合医学部購買書籍店窓口で受け付けます。

5. その他

1) 生活協同組合の事業所

九州大学の教職員・学生を組合員として運営されています。病院地区には食堂，売店，医系購買店及び医系書籍店があります。詳しくは生協のサービスカウンターで尋ねてください。

病院地区構内図

(医, 歯, 薬学部等)



10. 令和8年度学年暦（医学系学府）

行 事 名	日 程	備 考
※前期開始	4月1日（水）	
※春季休業	4月1日（水）～4月7日（火）	休業日
※春季入学式	4月3日（金）	
医学系学府大学院入学者説明会	4月6日（月）	
※学生定期健康診断 （病院地区日）	4月8日（水）～4月14日（火） （完全予約制・土日祝日を除く）	
※春学期授業開始	4月8日（水）	
前期授業開始（医学系学府）	4月8日（水）（一部科目を除く）	
※本学記念日	5月11日（月）	
※夏季休業	8月8日（土）～9月30日（水）	休業日
※秋季学位記授与式	9月25日（金）	
※前期終了	9月30日（水）	
※秋学期授業開始	10月1日（木）	
後期授業開始（医学系学府）	10月1日（木）	
※秋季入学式	10月2日（金）	
※九大祭	10月30日（金）～11月2日（月）	10/30, 11/2 休講
※冬季休業	12月26日（土）～1月4日（月）	休業日
※大学入学共通テスト	1月16日（土）～1月17日（日）	1/15(金)休講
※一般選抜（前期日程）	2月25日（木）～2月27日（土）	
※一般選抜（後期日程）	3月12日（金）	
※春季学位記授与式	3月25日（木）	
※後期終了	3月31日（水）	

（注） 1. ※印は九州大学全学行事

2. 休業日において、特に必要がある場合は授業を行う。